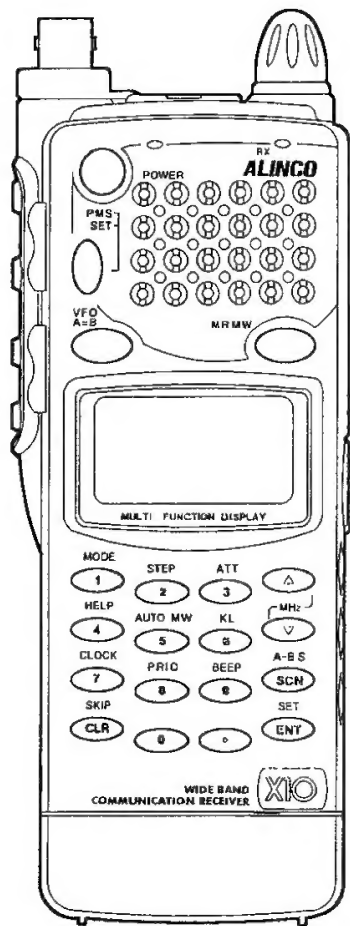
ALINCO

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

DJ-X10

取扱説明書

アルインコ ワイドバンドレシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させて効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。また、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。ご使用中に不明な点や不具合が生じました時はこの取扱説明書がお役に立ちます。

アルインコ株式会社

もくじ

【1】ご使用の前に必ずお読み下さい

●使用上の注意

■ケースをはずして内部に手を触れないで下さい。故障の原因となります。

■直射日光に当る所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、及び保管はしないでください。

■付属のアンテナを完全に取り付けてお使いください。

■外部電源には、必ず専用のアクティブフィルター付シガーライターケーブル（EDC-36）をお使い下さい。

■万一、煙が出たり、変な臭いがする場合は、電源スイッチをすばやく切り、速やかに販売店、または最寄りの当社サービス窓口へご連絡下さい。

■本機の改造はおやめください。無理な改造が原因と思われる故障等については、保証期間内であっても、保証がきかなくなるうえに、修理をお断りする場合もありますので、この点充分にご留意ください。

■本機を次のような場所で使用する場合には管理者等の承認を得るようにしてください。
①航空機内　②病院等医療施設内

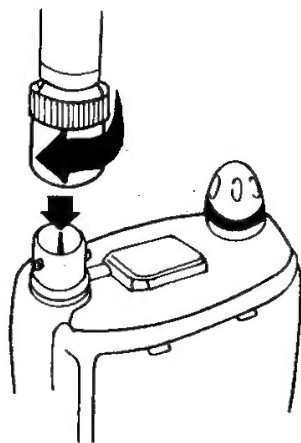
■6V 以上の電池（EBP-35N,EBP-36N）は使用できません。

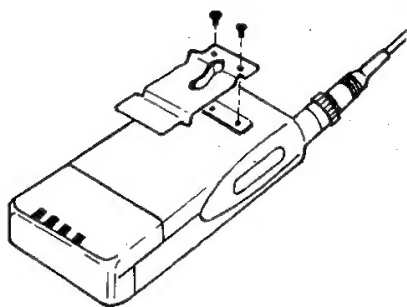
●付属品について

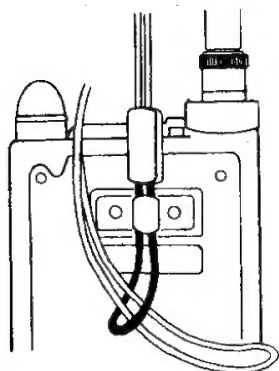
梱包を開きましたら、次の付属品を確認して下さい。

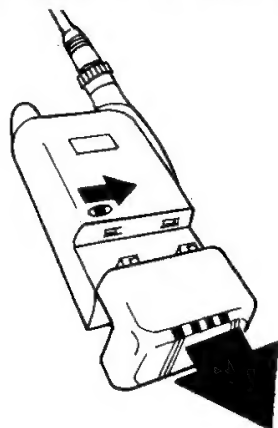
- アンテナ…………………………………1
- 電池ケース………………………………1
- EDC-62＜充電器＞……………………1
- EBP-37N＜Ni-Cd電池＞…………1
- ベルトクリップ（ネジ2本）…………1
- ハンドストラップ………………………1
- 取扱説明書………………………………1
- 保証書……………………………………1

★アンテナの取り付け方

アンテナの根元を持ち、底面の溝と、本体のアンテナコネクターの凸部を合わせて差し込み、アンテナを時計方向（右）に回します。確実に取り付けたことを確認して下さい。

★ベルトクリップの取り付け方

付属のベルトクリップをネジ2本で本体の後側に左の図のように取り付けます。確実に取り付いたことを確認して下さい。

★ハンドストラップの取り付け方

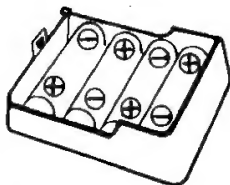
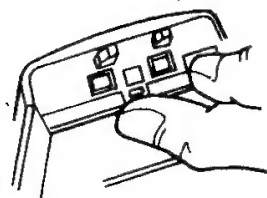
ベルトクリップと本体の溝の間に左の図のように取り付けます。

●電池のセット

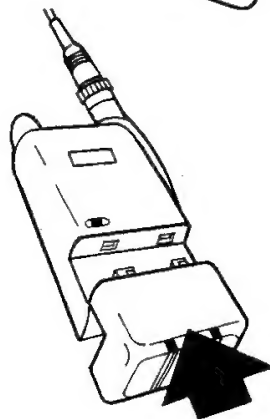
★電池ケースの取り付け・取り外し方

■電池ケースの取り付け方

電池ケースを本体の溝に合わせて図の矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

■電池ケースの取り外し方

電池ケースロックボタンを矢印の方向に押したまま、ツメを外して電池ケースを引き抜きます。

★電池をセットする

1.電池ケースの上部のツメを図のように外し上方向に引き上げると、電池ケースが開きます。

2.市販の単3型アルカリ乾電池4本を電池ケースに書いてある「+」、「−」の印に従って乾電池をケースにセットします。

3.電池ケースを1.で外したツメに合わせ、底の方をカチッと音がするまで押します。

注意

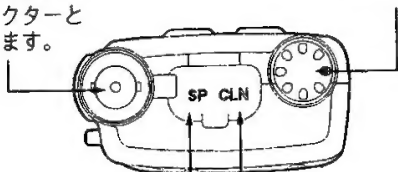
・市販の単３型ニカド電池は使用しないでください。
・電池は同じ種類のものを使用してください。なお、長時間運用のためにはアルカリ電池の使用をお勧めします。
・古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。・オプションのニカド電池をご使用になる場合は、ご使用前に必ずニカド電池の取扱説明書をお読みください。

●本機の主な特徴

1.受信周波数範囲：0.1～1999.999950MHz（電気通信事業用周波数帯は除く）
2.基本モード：デュアルVFO・メモリ（MR）・プログラムスキャン（PMS）の各モードをワンタッチで切り替えが可能。
3.メモリ数：40CH（チャンネル）×30バンクの合計1200CH。
4.スキャン機能：プログラムスキャン（PMS）
メモリスキャン
モードセレクトスキャン
VFOスキャン
VFOリンクスキャン
プライオリティスキャン
5.20組のプログラムスキャン(PMS)が可能。
6.チャンネルスコープ機能：40CH、7CHの切替可能。
連続サーチ
インターバルサーチ
シングルサーチ
7.バッテリセーブ機能
8.時計機能：24時間制
Onタイマ
Offタイマ
9.ケーブルクローン機能、パソコンコントロール機能搭載
10.オールモード受信：AM／NFM／WFM／LSB／USB／CW
オートモードセレクト
11.チャンネルステップ切替：50Hz～500KHzの間20種類オートステップセレクトで選択が可能。
12.各周波数のエディット機能

【2】各部の名称と機能

【上面部】

アンテナコネクター
付属のアンテナを接続するためのコネクターです。BNCコネクターとなっています。

ダイヤル
周波数やメモリチャンネルの切り替え、その他の各種設定に使用します。

SP端子
外部スピーカーまたはイヤホンを接続するための端子です。

クローン端子
セット間のクローンまたはパソコン専用エディターとの通信を行うための端子です。

【側面部・アンテナ側】

F（ファンクション）キー
このキーと他のキーを組み合わせることにより、各種機能を呼び出すことができます。

VOLUME ▲/▼キー
スピーカー音量を調整します。

MONIキー
このキーを押している間は、スケルチのレベルに関係なく、一時的にスケルチを解除した状態となります。

SRCHキー
このキーを押すと、40CHスコープ機能が動作します。もう一度押すとOFFとなります。また、Fキーを押しながらこのキーを押すと7CHスコープとなります。

SQUELCH ▲/▼キー
スケルチの感度調整を行います。このキーを操作して、ノイズの消える点に調整します。

LAMPキー
ディスプレイの照明をON／OFFします。

【全面部】

ハードリセットキー
このキーを押すことで、全ての機能を工場出荷時の状態にリセットします。メモリは消えません。

電源スイッチ

PMS／SETキー
プログラムスキャンモードに移行します。Fキーを押しながらこのキーを押すと、プログラムスキャンの登録を行うことができます。

VFO／A＝Bキー
デュアルVFOモードとなります。Fキーを押しながらこのキーを押すと、表示の上のバンドの周波数を、表示の下のバンドにコピーします。

【側面部・ダイヤル側】
DC-IN
8~15VのDCの
外部電源接続用
端子です。
BUSYランプ
信号を受信すると点灯します。
スピーカ
MR/MW
メモリを呼び出すときに使用します。Fキーを押しながらこのキーを押すと、メモリの書き込みを行います。
ALINCO
MR MW
ディスプレイ
周波数表示やその他、運用状態がここに表示されます。
ATT
KL
BEEP
A-B S
SCN
SET
ENT
MHz
X10
キーボード
VFOモードのときはこのキーを押すことで目的周波数を直接入力することができます。Fキーと一緒に押すことにより、各種機能を動作させることができます。
【背面部】
ベルトクリップ取付穴
付属のベルトクリップを取り付けるための穴です。
MAX4
電池ケースロック
電池ケースを外すとき、このレバーを右にスライドさせると、電池ケースを取り外すことができます。
EBP-37Nニカド電池
または電池ケース
単3型乾電池を4本収納するためのケースです。

● EDC-62〈普通充電器〉

★充電方法

バッテリーパックの両サイドの溝を本機の両側のリブにすべらせて、挿入してください。ランプが点灯し充電が開始されます。

★取扱方法

■充電中は、必ずセット本体の電源スイッチをOFFにしておいてください。
■他社製品の充電等には、絶対に使用しないでください。
■充電時間は、バッテリーパックの消費状態および各商品によって異なります。充電時間については、各バッテリーパックの取扱説明書を参照してください。
■本機の充電端子を金属片等で短絡させたりすると、本機にダメージを与える場合があります。
■ニカドバッテリーパックは逆方向には挿入しないでください。

★バッテリーパックについて

本機で充電できるバッテリーパックは次の通りです。
EBP-33N（4.8V　650mAH）
EBP-34N（4.8V　1200mAH）
EBP-37N（4.8V　700mAH）

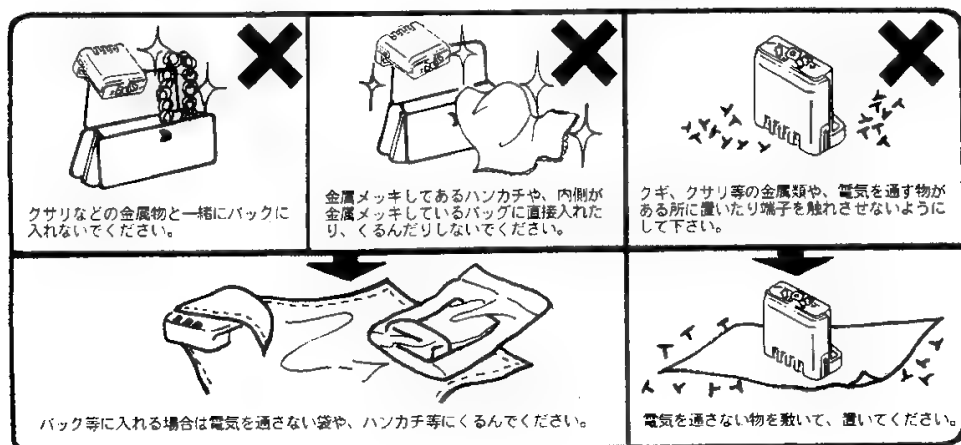
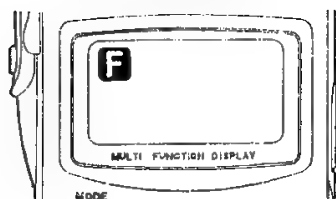
● EBP-37N〈Ni-Cd蓄電池〉

1.本機は出荷時充電されておりません。お買い上げ後充電してからご使用ください。
2.本バッテリーをEDC-62で充電する時は約11時間必要です。
3.充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。

4. バッテリーパックの改造、分解、火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
5. バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器を損傷させたり、バッテリーの発熱にとり、やけどの恐れがあります。
6. 必要以上の長時間充電（過充電）はバッテリーの性能を低下させますのでさけてください。
7. バッテリーパックの保存は、－20℃～＋45℃の範囲で温度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に温度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部のサビの原因になりますのでさけてください。
8. 通常の使用で約300回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたと思われます。新しいものをご使用ください。
9. ご使用済みのニカド電池は貴重な資源です。再利用しますので、廃棄しないでニカド電池回収協力店へご持参ください。
10. 本バッテリーはDJ-X10に装着している時は、DC-INに8～15V DCを接続すると充電することができます。

●ご注意

★ニカドバッテリーのショート防止

ニカドバッテリーパックを持ち運ぶ際には、端子を絶対にショートさせないよう注意してください。大電流が流れてやけどや火事になる危険があります。

●本書の読み方

各キーの表記は「 」印。表示面上の表示表記は〔 〕印とします。

「F」キーに関しては、押して離しますと表示部に〔F〕と表示されますので、その表示されている間に他のキーを押すようにします。

また、表示部の表示表記に関しては、その場所で説明を要する必要な部分だけを表記しておきます（実際には多くのキャラクタが表示されています)。

■VFOモードとは・・・ダイヤルまたは▲キーおよび▼キーの操作で周波数を選んで受信する操作モードです。

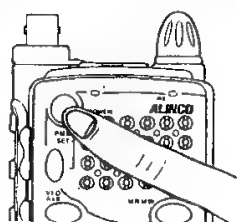
■PMSモードとは・・・スキャンの範囲を決めてプログラムされているチャンネルを選んで受信する操作モードです。

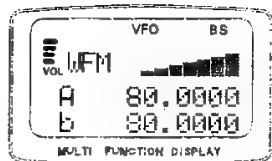
■MRモードとは・・・よく使う周波数をメモリーに入れておき、そのメモリーを選択して受信する操作モードです。

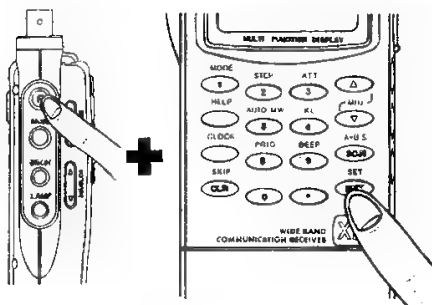
【3】ビギナーモード（基本的操作法）

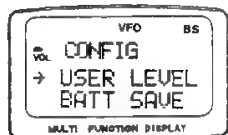
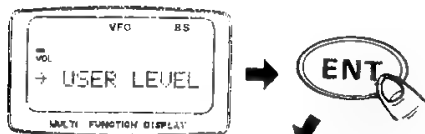
★ビギナーモードとは、初めて本機を操作する方におすすめするモードです。このモードは各キーの操作範囲が少なくなっており、これにより本機の操作に慣れていただけるようになっております。なお、このモードの他にエキスパートモードというものがありますが、これは本機の操作に充分慣れて、さらに多くの機能を使うときにこのモードにします。しかしこのモードにしますと、キー操作が複雑になりますので、本書をよく読んで操作方法を確認してください。

〔1〕電源の入れ方

①左上オレンジ色のキーを1秒以上押し続けます。

②〔ALINCO WIDE BAND RECEIVER〕と表示されます。

はじめて電源を入れた時は左のような表示になります。

〔2〕ビギナーモードの設定

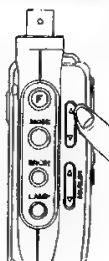
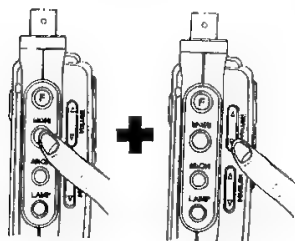
（初期値はビギナーモードに設定されています）

①電源が入りましたら、左側面上にある「F」キーを押しますと、表示面に［F］と表示されます。

②［F］が表示されているうちに（約3秒間）、または「F」キーを押しながら「ENT」キーを押します。

③［CONFIG］と表示されます。そしてその下の矢印をダイヤルまたは「▲」キーあるいは「▼」キーを使って［USER LEVEL］に合わせます。

④矢印を［USER LEVEL］に合わせた後「ENT」キーを押します。

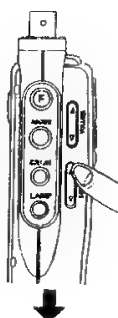
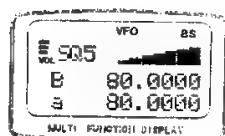
⑤［Beginner］と［Expert］と表示されますので、矢印をダイヤルまたは「▲」キーあるいは「▼」キーを使用して［Beginner］に合わせます。

⑥矢印を［Beginner］に合わせた後、「ENT」キーを押します。

⑦ 矢印が［USER LEVEL］に戻りますので、「▼」キーを押して矢印を［END］に合わせます。そしてもう一度「ENT」キーを押します。これでビギナーモードの設定は終了です。

〔3〕音量の設定

① 本体左側面にある「VOLUME」キーの上（▲）を押すと表示画面左上の［VOL］のバーが増えて行き、スピーカーからの音量が大きくなります。逆に「VOLUME」キーの下（▼）を押しますとバーが減って行き、スピーカーからの音量は小さくなります。

②信号が入っていない時に音量調整を行う場合は、本体側面の「MONI」キーを押しながら「VOLUME」キーを操作しますと、スピーカーからノイズが出て、音量が分かります。

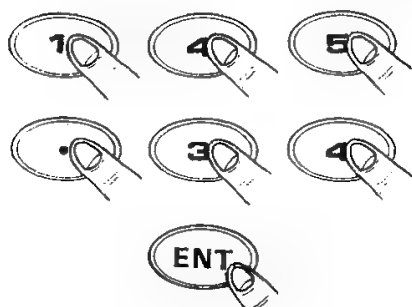
〔4〕スケルチの調整法

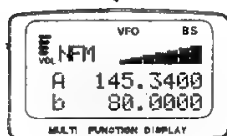
★スケルチとは、信号が入ってこないときにスピーカーからノイズが出ないようにするための機能です。

① 本体左側にある「SQUELCH」キーの上（▲）を押すと表面に「SQ5」というように表示されてスケルチ感度が深くなります。逆に「SQUELCH」キーの下（▼）を押すとスケルチ感度は浅くなります。なお、このスケルチ感度は「SQ0」から「SQ9」まで選択できます。

② スケルチ感度の選択方法は「SQ0」の位置から「SQUELCH」キーの上（▲）を押して、ノイズが消えるところ（臨界点）にセットします。あまりスケルチ感度の深い位置にセットしますと、信号が入ってきてもスピーカーから音が出てこなくな

ります。逆にスケルチ感度を浅く設定しすぎますと常時スピーカーからノイズが出ている状態となります。

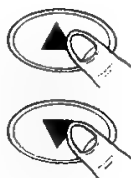
〔5〕受信周波数の設定

(1) テンキーを使って周波数を設定する

★本体正面のテンキーを使用して周波数を入力する方法です。

① (例①)「145.3400」MHzを受信したい場合、「1」「4」「5」「.」「3」「4」「ENT」と押します。最後の[00]は「ENT」キーを押すことで省略できます。

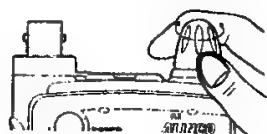
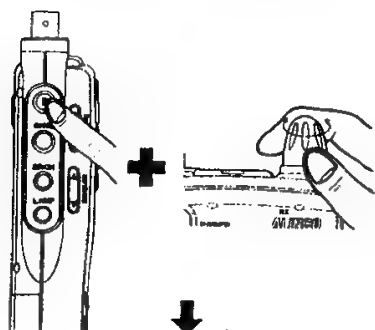
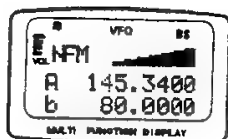
② (例②)「0.5580」MHz =「558」KHz を受信したいときには、「0」「.」「5」「5」「 8」「ENT」と押していきます。(最初の0=ゼロは省略できます)

③ (例③)「1200.0000」MHzを受信したいときには、「1」「2」「0」「0」「ENT」と押すことで「1200.0000」を受信できます。

(2) ▲キーと▼キーを使って周波数を設定する

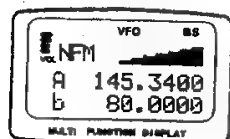
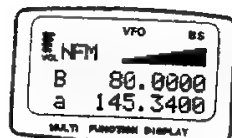
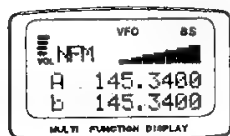
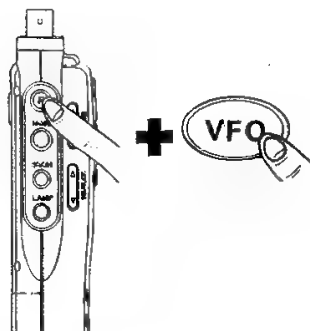
★本体正面にある「▲」キーと「▼」キーを使って周波数を設定します。

①「▲」キーを押しますと、周波数が高くなっていきます。逆に「▼」キーを押しますと周波数が低くなっていきます。この周波数の移動は、受信している周波数帯の周波数ステップに従って移動します。この周波数ステップを変更するときは『周波数ステップの変更』(26ページ)の項目をよく読んでください。(エキスパートモード)

②「F」を押して(または押しながら)「▲」キーまたは「▼」キーを押しますと1MHz単位で周波数が移動していきます。

(3) ダイヤルを使って周波数を設定する

★本体上部右にあるダイヤルツマミを回して周波数を設定する方法です。

①ダイヤルを右（時計方向）に回しますと　周波数は高くなります。逆に左（反時計方向）に回しまと周波数は低くなります。

②「F」キーを押して（または押しながら）このダイヤルを回しますと10MHz単位で周波数が上下します。

〔6〕VFO「b」にもう一つ周波数を入力する方法

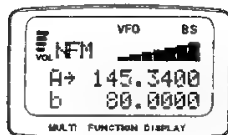
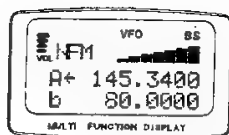
★本機はデュアルVFO方式となっていますので、もう一つの周波数を入力しておきますと簡単にバンドを変えて受信できます。大文字で表示されている側が現在動作中であることを示します。

①「VFO」キーを押しますと「b」にあった周波数が「B」になります。

②ここで周波数の入力法をよく読んで、目的の周波数を入力してください。

③「A」VFOと「b」VFOを変えるときは「VFO」キーを押します。

④「F」キーを押して（または押しながら）この「VFO」キーを押しますと、「A」の周波数が「b」VFOへコピーされます。

〔7〕スキャンする方法

★信号の出ている周波数を探すのに便利な機能です。

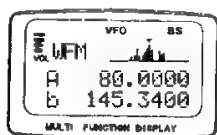
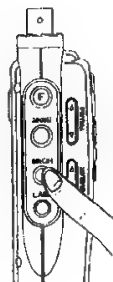
①「SCN」キーを押すと、周波数ステップに従ってスキャンを開始します。

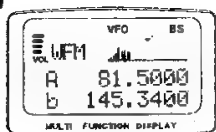
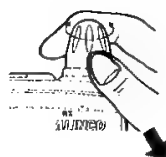
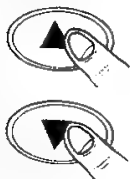
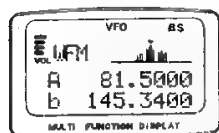
②スキャン中は使用中（上段大文字表示）のVFOの所に矢印が表示されます。その矢印の向きが左の時は周波数が高い方向にスキャンします。

③「▼」キーを押すと、矢印が右方向に変更され、周波数の低い方向にスキャンを開始します。周波数を高い方向に変化させたい場合は「▲」キーを押します。

④信号が出ている周波数でスキャンは一時ストップし、その周波数を受信しています。さらにスキャンさせたい時は、ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押します。

⑤スキャン機能の解除は再度「SCN」キーを押すことで解除できます。

〔8〕 サーチ機能を使う

★受信周波数帯の周波数ステップに従った40チャンネルあるいは7チャンネル幅でどこに信号が出ているかを探す機能です。

①本体左側面の「SRCH」キーを押すと、表示部に現在受信している周波数を中心として、40チャンネルの幅で（受信している周波数帯の周波数ステップ幅で）どこに信号が出ているかをサーチします。

②信号が出ているとその信号の強度に応じてバーが表示されます。その信号が出ている周波数を受信するには、ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーでその周波数を中心周波数に持って来ることにより、その周波数を受信することができます。

③ダイヤルを右（時計方向）に回すと、信号の出ている周波数は左に移動します。逆に左（反時計方向）に回すと、信号の出ている周波数は右に移動します。「▲」キーを押すと、信号の出ている周波数は左に移動します。逆に「▼」キーを押すと右に移動します。

④「F」キーを押して（または押しながら）「SRCH」キーを押しますと、受信周波数を中心に7チャンネル分をサーチします。なお、この場合でも各操作は前項のように行います。

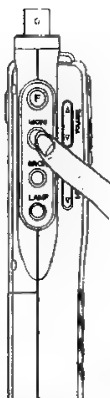
⑤このサーチ機能の解除は「SRCH」キーを押すことで解除されます。

※工場出荷時のサーチモードはINTERNALに設定されていますので、約10秒に一度サーチを行うため、サーチしている間は音が途切れます。

〔9〕 モニター機能

★信号の弱い電波を受信するときに便利な機能です。

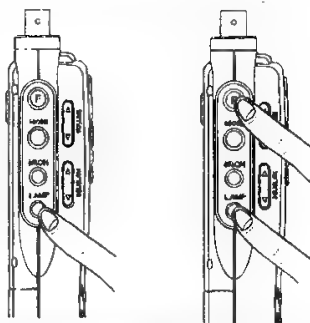
①本体左側面にある「MONI」キーを押すと、押している間はスケルチ機能が解除され、弱い信号を受信することができます（信号が入っていないときはノイズが聞

こえます)。

②「MONI」キーを離すとスケルチ機能が働いた状態に戻ります。

③「F」を押して(または押しながら)「MONI」キーを押すと、「MONI」キーを離してもスケルチ機能が解除された状態となります。

④再び「MONI」キーを押すことで③で設定した解除されます。

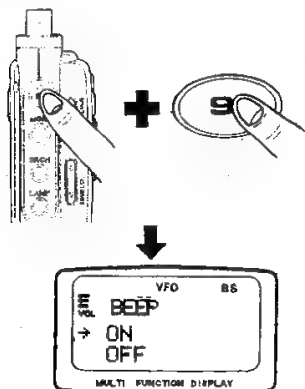
〔10〕ランプ機能

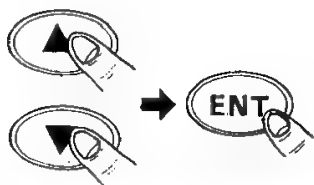
★夜間の運用時など各部が照明され、使いやすくなる機能です。

①「LAMP」キーを押すと、ダイヤルおよびキーを操作している間、表示部と各キーが照明されます。そのままにしておきますと、約5秒後に自動的に消灯します。

②「F」キーを押して(または押しながら)「LAMP」キーを押すと、照明が点灯したままとなります。

③解除は「LAMP」キーを押すことで解除されます。

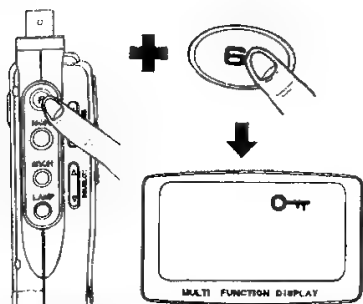
〔11〕ビープ音機能

★ビープ音とは各キーやその他を操作した時になる「ポッ」または「ピポッ」という音のことです。

①「F」キーを押して(または押しながら)「9」キーを押します。

②表示部に〔BEEP〕と表示され、その下に〔ON〕と〔OFF〕が表示されますので、ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーで、矢印を〔ON〕あるいは〔OFF〕に合わせます。

③ [ON] に矢印を合わせた場合、ビープ音は鳴り[OFF] に合わせた場合はビープ音は鳴りません。

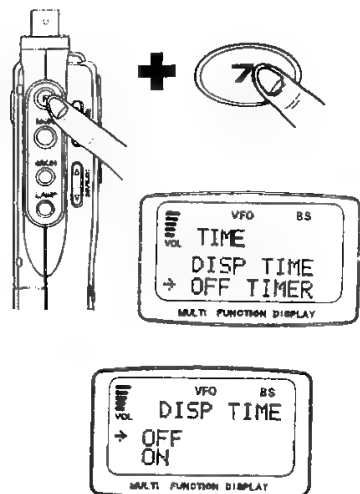
④「ENT」キーを押して設定終了です。

〔12〕キーロック機能

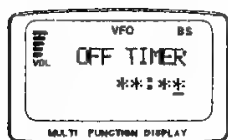
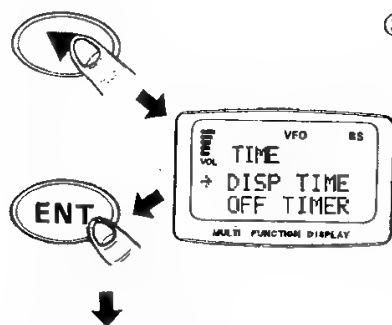
★この機能を使用すると、間違ってキーが操作されることがありません。

①「F」を押して(または押しながら)「6」キーを押します。[O┳] が表示されて、「POWER」キー、「MONI キー」、「VOLUME」キー、「SQUELCH」キー、「F」キー、「LAMP」キー以外のすべてのキーは押しても動作しなくなります。

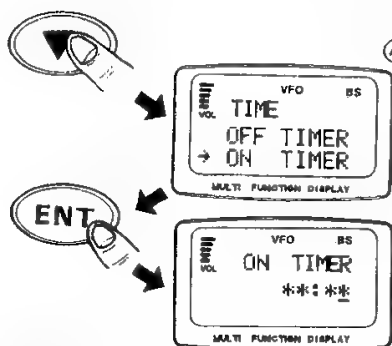
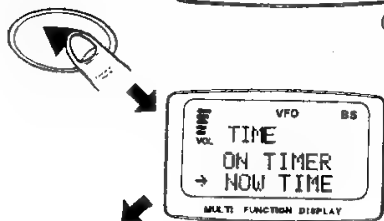
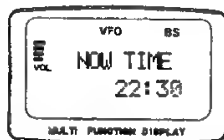
②このキーロックの解除は「F」キーを押して(または押しながら)「6」キーを押すことで解除されます。

〔13〕クロック機能

★この機能は現在の時間を表示したり、電源をONあるいはOFFする時間を設定したりします。

①「F」を押して(または押しながら)「7」を押します。[TIME] と表示されて、「▼」キーを押す毎に [DISP TIME]、[OFF TIMER]、[ON TIMER]、[NOW TIME]、[END] の各項目が表示されます。項目を戻りたいときには「▲」キーを押します。

② [DISP TIME] は現在時間を表示させる機能です。矢印を[DISP TIME]に合わせて「ENT」キーを押します。[DISP TIME]と[OFF]、[ON]と表示されますので、そのどちらかを選びます。[OFF]を選択しますと表示部に時間が表示されません。[ON]を選択しますと表示部に時間が表示されます。そのどちらかを選んだらもう一度「ENT」キーを押します。元の表示に戻りますので、「▼」キーを押して矢印を [END] に合わせます。ここでもう一度「ENT」

キーを押して設定は終了です。なお、現在時間を設定するには[NOW TIME]の頁をお読み下さい。

(注意) 本機はバッテリーが消耗した状態で長時間放置した場合、又は電池交換時約10分間以上電池を外していると設定した時間がリセットされます。

③ [OFF TIMER] は電源の切れる時間を設定することができます。矢印を [OFF TIMER] に合わせて「ENT」キーを押します。[OFF TIMER] と [＊＊：＊＊]（これは過去に設定されたことがないことを示します。もし過去に時間を設定したことがある場合は、その時間が表示されます）とが表示されます。分の単位を設定するときはカーソルが分の位置にあることを確認して、ダイヤルを使用して00分～59分まで設定します。「▲」キーを押しますとカーソルが移動して時の単位を設定することができます。00時～23時まで設定することができます。分の単位を再度設定しなおすときは「▼」キーを押してカーソルを分の単位の所に移動させます。電源が切れる時間を設定した後に、「ENT」キーを押します。設定を解除する時はCLRキーを押します。矢印を「▼」キーをつかって[END]に合わせて、もう一度「ENT」キー押して設定は終了です。設定した時間に自動的に本体の電源が切れます。

④ [ON TIMER] は自動的に電源が入る時間を設定することができる機能です。矢印を[ON TIMER]に「▲」キーまたは「▼」キーで合わせます。次に「ENT」キーを押します。[ON TIMER]と[＊＊:＊＊]と表示されます。時間の設定方法は[OFF TIMER]と同じです。これで設定した時間に自動的に本体の電源が入ります。

⑤ [NOW TIME] は現在時間を設定することができます。[NOW TIME]の所に「▲」キーまたは「▼」キーを押して矢印を合わせます。次に「ENT」キーを押すと[NOW TIME]と[＊＊:＊＊]（過去に時間設定がされたことがあるときはその時間が表示されます）が表示されます。設定方法は[OFF TIMER]と

同じです。時間の設定が終了したら、「ENT」キーを押します。「▼」キーを押して矢印を[END]に合わせます。そしてもう一度「ENT」キーを押して現在時間の設定は終了です。

〔14〕PMS（プログラムスキャン）

★「PMS」キーを押すと、登録されているバンド内を選択してスキャンします。工場出荷時登録されていますが、内容はエキスパートモードで変更可能です（エキスパートPMSの設定ページ）。

①「PMS」キーを押します。その後「1」から「0」までのいずれかの数字キーを押すと、その番号に対応したプログラムスキャンを開始します。違う数字キーを再度押すと、すぐにその番号のプログラムスキャンに切り替わります。

「・」キーを押すと大文字「P」と小文字「p」が交互に換り各々10組計20組選択できます。

②終了するには「VFO」キーまたは「MR」キーを押します。

〔15〕MR（メモリー）

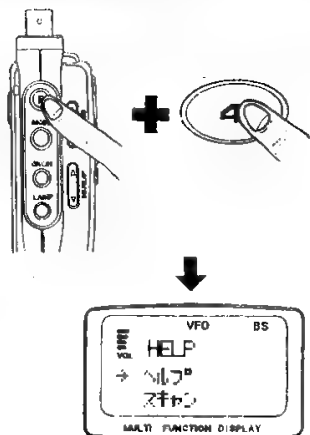
★「MR」キーを押すと、工場出荷時に登録されている周波数に簡単に合わせることができます（登録されている以外のメモリーを選択すると周波数表示はされません）。メモリーの内容はエキスパートモードで変更可能です（メモリーの設定35ページ）。メモリーはA、B、Cと3種類のバンクがあり、それぞれ400ch のメモリーがあり、合計1200ch あります。

①「MR」キーを押します。バンク番号［A0～A9］［B0～B9］［C0～C9］のいずれかが表示され、「.」キーを押すと、A、B、C順にバンクを選択できます。バンク種類選択後に数字キーを押すことでバンク番号を選択できます。

②バンク番号選択後チャンネルを選択するには、ダイヤルまたは「▲」／「▼」キーで00～39までのチャンネルを選択でき、登録されている周波数と名前が表示されます。

【4】ヘルプ機能を上手に使う

★いろいろな操作に困ったときに役に立つ機能です。一覧表にしますので操作の参考にしてください。

〔1〕ヘルプ機能の動作方法

①ヘルプ機能を動作させるには、「F」キーを押して（または押しながら）「4」キーを押します。

②表示部に［ヘルプ］と表示され、その下に矢印と［ヘルプ］、［スキャン］、［スキップ］、［オートメモリライト］、［エキスパート］、［リンク］、［タイマー］、［トケイ］、［コピー］、［デリート］、［PMR］、［クローン］、［ディスプレイ］、[M.TUNE]、［トウロク］、［スコープ］の順で表示されますので、目的の所に「▲」キーあるいは「▼」キーを使って矢印を持って行きます。

③次に「ENT」キーを押します。例えば［スコープ］の所に矢印を合わせて「ENT」キーを押しますと[スコープ]と[サーチ]、[ズーム]、「ピークサーチ]、[サーチモード]という項目が表示されますので、「▲」キーまたは「▼」キーを使って目的の所に矢印を移動します。例えば[ズーム]の所に矢印を合わせて再度「ENT」キーを押します。そうしますと[ズーム]、[#40]というようにLCD上に簡単な操作方法が表示されます。さらに詳しい操作方法を知りたい場合は、この取扱説明書の『#40』の項目をお読みください。

④このヘルプ機能を解除するときは「CLR」キーを元の画面になるまで押します。

〔2〕ヘルプ機能の日本語／英語選択方法

①「F」キーを押して（または押しながら）「ENT」キーを押します。

②[LANGUAGE]と表示されたところにダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押して、矢印を合わせて[ENT]キーを押します。

③ [ニホンゴ] [ENGLISH] と表示されますので、ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押してどちらかに矢印を合わせ選択します（工場出荷時は日本語に設定されています）。矢印を[ニホンゴ]に合わせるとその後のヘルプ表示は日本語となります。

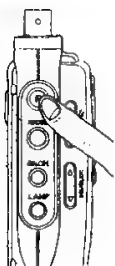
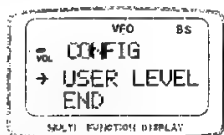
ヘルプ機能一覧表

ヘルプ番号	「F」+「4」→「▲」/「▼」	「ENT」→「▲」/「▼」	「ENT」	説明書項目	ページ
＃01	ヘルプ	キゴウ＆	2キードウジオシ	【6】〔1〕	26
＃02	ヘルプ	キゴウ！	キー1ビョウオシ	【6】〔2〕	38
＃03	ヘルプ	キゴウ＃	トリセツサクイン	—	—
＃04	ヘルプ	キゴウ→	センタク　マタハ　ツギノドウサ	—	—
＃05	ヘルプ	キゴウ＋	アップ　キー	—	—
＃06	ヘルプ	キゴウ－	ダウン　キー	—	—
＃07	ヘルプ	キゴウ or	マタハノイミ	—	—
＃08	スキャン	ノーマルスキャン	MR→SCN VFO→SCN	【6】〔3〕	48
＃09	スキャン	ABスキャン	VFO→F＆SCN	【6】〔3〕	48
＃10	スキャン	モードスキャン	モードセレクト MR！→MODELSEL	【6】〔3〕	48
＃11	スキャン	モードスキャン	スキャンスタート MR→SCN	【6】〔3〕	49
＃12	パス	セット	PMS→CLR	【6】〔4〕	49
＃13	パス	パスヘンシュウ	PMS→F＆CLR	【6】〔4〕	49
＃14	オートメモリライト	————	PMS→F＆5 セレクト ON	【6】〔5〕	49
＃15	エキスパート	————	F＆ENT→USER	【5】〔1〕	25
＃16	リンク	MRリンク	MR→BANK LINK	【6】〔7〕	49
＃17	リンク	PMSリンク	PMS！→PROG LINK	【6】〔7〕	50
＃18	リンク	VFOリンク	F＆・	『2』③	45
＃19	タイマー	オンタイマー	F＆7→ON TIME	【3】〔13〕	20
＃20	タイマー	オフタイマー	F＆7→OFF TIME	【3】〔13〕	20
＃21	トケイ	ディスプレイ	F＆7→DISP	【3】〔13〕	19
＃22	トケイ	セット	F＆7→NOW	【3】〔13〕	19

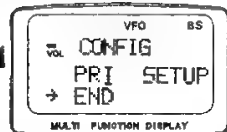
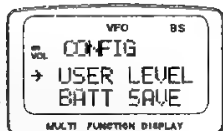
ヘルプ番号	「F」+「4」→「▲」/「▼」	「ENT」→「▲」/「▼」	「ENT」	説明書項目	ページ
＃23	コピー	VFOコピー	VFO→F & VFO	【6】〔10〕	50
＃24	コピー	MR→VFO	MR→F & VFO	【6】〔10〕	50
＃25	コピー	PMS→VFO	PMS→F & VFO	【6】〔10〕	51
＃26	コピー	MRバンクコ	MR！→EDIT→BNK.COPY	【6】〔10〕	51
＃27	コピー	PMSコピー	PMS！→EDIT→PMS.COPY	【6】〔10〕	51
＃28	コピー	MR CH コピー	MR！→EDIT→CH.COPY	【6】〔10〕	51
＃29	デリート	メモリーバンク	MR！→EDIT→BNK.DEL	【6】〔11〕	52
＃30	デリート	メモリーCH	MR！→EDIT→CH.DEL	【6】〔11〕	52
＃31	デリート	PMS	PMS！→EDIT→PMS.DEL	【6】〔11〕	52
＃32	PMR	トウロク	MR！→PMR	【6】〔12〕	52
＃33	PMR	スタート	MR→F & SCN	【6】〔12〕	52
＃34	クローン	────	PWR OFF→F &＋PWR	【6】〔13〕	52
＃35	ディスプレイ	デモモード	PWR OFF→MONI & PWR	【6】〔14〕	53
＃36	ディスプレイ	LCD コントラスト	デモモード→＋ or −	【6】〔14〕	53
＃37	M.TUNE	────	MR→ ENT PMS→ENT	【6】〔15〕	54
＃38	トウロク	メモリーMR	VFO→F & MR	【6】〔16〕	54
＃39	トウロク	プログラム PMS	VFO→F & PMS	【6】〔16〕	54
＃40	スコープ	サーチ	F & SRCH→7CH SRCH→40CH	【6】〔17〕	55
＃41	スコープ	ズーム	SRCH！→ZOOM	【6】〔17〕	55
＃42	スコープ	ピークサーチ	SRCH→F &＋ or −	【6】〔17〕	55
＃43	スコープ	サーチモード	SRCH！→MODE	【6】〔17〕	55

【5】エキスパートモードの操作法

★ビギナーモードで本機の操作方法に慣れたら、いろいろな操作をもっと楽しむことができるエキスパートモードに移って本機の性能を充分に引き出して応用操作をしよう。

〔1〕エキスパートモードへの移行操作

①「F」キーを押して（または押しながら）「ENT」キーを押します。

② [CONFIG] と [USER LEVEL]、[END] と表示されますので、矢印が [USER LEVEL]にあることを確認します。

③「ENT」キーを押すと[Beginner]と[Expert]と表示されますので、「▼」キーを押して矢印を[Expert]に合わせます。

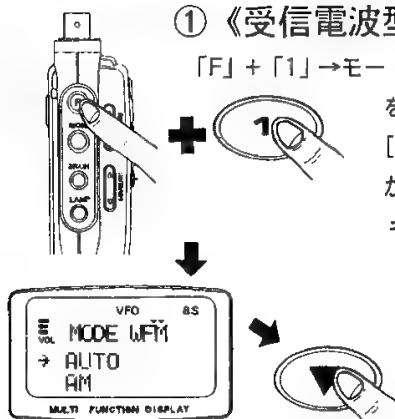
④「ENT」キーを押すと、表示の[USER LEVEL]になりますので、「▼」キーを押して矢印を[END]に合わせます。

⑤矢印を[END]に合わせた後に、もう一度「ENT」キーを押して設定は終了です。

【6】エキスパートモードでの各キーの操作法

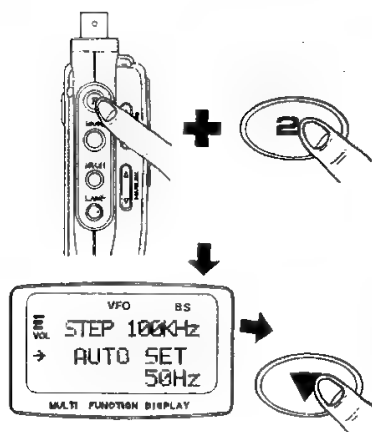
★ヘルプ機能の表示に従って各キーがどのように動作するかを説明します。

#01

〔1〕「2キードウジオシ」

①《受信電波型式の切り替え》

「F」+「1」→モード切り替え=ダイヤル回すか、または「▲」/「▼」キーを押して目的の受信電波型式を選ぶことができます。[AUTO] にしますと受信周波数により自動的に電波型式が確定します。選択したい電波型式が確定したら「ENT」キーを押して確定します。

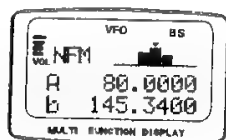
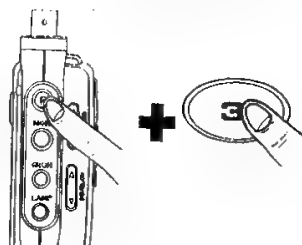
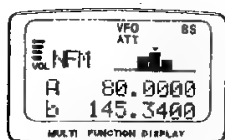
AUTO⇄AM⇄NFM⇄WFM⇄USB⇄LSB⇄CW この順にモードが変化します。

②《周波数ステップの変更》

「F」+「2」→周波数ステップの切り替え=受信周波数のステップ（ダイヤル）を回したときに次の周波数に移行する周波数幅のこと）を切り替えて20種類から選択することができます。[AUTO STEP] を選択しますと、受信している周波数帯により自動的に周波数ステップが決定します。選択方法はダイヤル、または「▲」/「▼」キーを押して、目的の周波数ステップに矢印を合わせ、「ENT」キーを押して決定します。ステップ変更を行うと、そのステップで割り切れる周波数に自動的に修正されます。20kHzステップで奇数周波数を選択するには、先にSTEPを合わせた後で、周波数をキー入力します。

周波数ステップは下記の20種類の中から選択することができます。

AUTO STEP ⇄50Hz⇄100Hz⇄1kHz⇄2kHz⇄5kHz⇄6.25kHz⇄9kHz⇄10kHz⇄12.5kHz⇄15kHz

⇧⇩

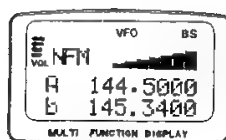
500kHz⇄250kHz⇄200kHz⇄150kHz⇄125kHz⇄100kHz⇄50kHz⇄30kHz⇄25kHz⇄20kHz

③《アッテネータ機能の動作》

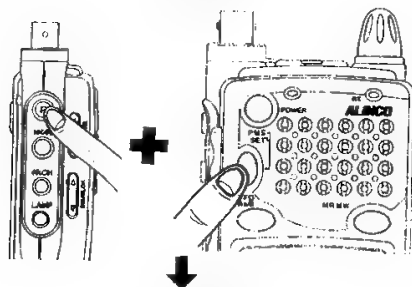
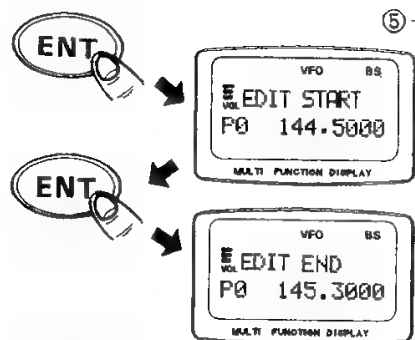
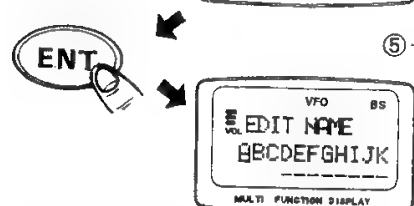
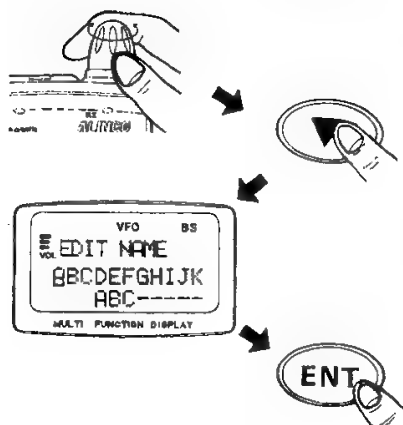
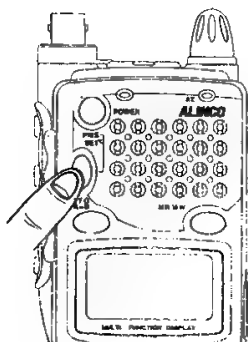
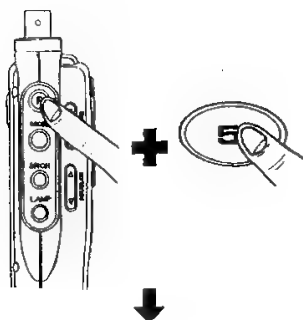
「F」＋「3」→アッテネータの動作＝受信している信号が他チャンネルの強力な信号で影響を受けているような場合、この機能を動作させることによりその影響を軽減します。表示部に［ATT］と表示されて、アッテネータ機能が動作していることを示しています。解除は再度「F」＋「3」で解除になります。

④《ヘルプ機能》

「F」＋「4」→ヘルプ機能＝各種操作が分からなくなったときに、この中の項目を探して操作をしてください。なお、この機能の詳しい取り扱いについては【4】の『ヘルプ機能』の項をお読みください。

⑤《オートメモリライト機能》

「F」＋「5」→オートメモリライト機能＝スキャン中に信号が入って止まった周波数を自動的にメモリバンクC9に書き込む機能です。メモリ数は40件です。ただし、この機能はPMSモードのときだけ働きます。

⑤－①VFOモードでVFO［A］にスキャンのスタート周波数を設定します。次にVFO［b］スキャンのエンド周波数を設定します。

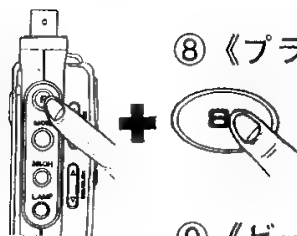
⑤－②「F」キーを押して（または押しながら）「PMS SET」キーを押しますと、［EDIT BANK］と表示されますので、数字キーまたはダイヤルを使用してバンク番号を決定します。

⑤－③バンクとバンク番号が決定した後に「ENT」キーを押しますと [EDIT START] と表示されて、VFOモードのときのVFO [A] に入れた周波数がスキャンのスタート周波数として登録されます。次に「ENT」キーを押すと、[EDIT END]と表示され、VFOモードのときにVFO[b]に入れられた周波数がスキャンエンド周波数として登録されます。

⑤－④ここで「ENT」キーを押すと、[EDIT NAME]と表示されて、その下に文字が表示されますので、ダイヤルを回して選びたい文字の所にカーソルを持っていきます。なお、文字はアルファベット大文字、アルファベット小文字、カタカナ、カタカナ小文字、数字、記号の順に表示されます。選びたい文字が決まったならば、「▼」キーを押します。最大8文字まで登録することができます。もし選ぶ文字を間違えたりした場合は「▲」キーを押すことで1文字づつ消すことができます。文字が決定したならば「ENT」キーを押します。

⑤－⑤ここでVFOモードに戻りますので、「PMS」キーを押します。これで先ほど設定した周波数範囲でスキャンを開始します。なお、スキャンの向き（周波数の高い方にスキャンを開始するのか、低い方に開始するのか）を決めるのは「▲」キーあるいは「▼」キーを押します。これによりスキャン時の矢印の表示方向が逆になります。

⑤－⑥ここでオートメモリライト機能を働かせる場合は、「F」キーを押して（あるいは押しながら）「5」キーを押しますと、[AUTO MW] と表示され、その下に [OFF]、[ON] と表示されますので、「▼」キーを押して [ON] の所に矢印を持って行きます。ここで「ENT」キーを押すと、スキャン中に入感した電波の周波数を自動的にメモリします。

⑤－⑦この自動的にメモリされた周波数を確認したいときには「MR」キーを押すと、バンク [C9] にメモリされており、ダイヤルを回すか「▲」キーか「▼」キーを押すことでメモリされた周波数を確認することができます。

⑥《キーロック機能》

「F」＋「6」→キーロック機能＝【3】〔12〕の項を読みください。

⑦《クロック機能》

「F」＋「7」→クロック機能＝【3】〔13〕の項をお読みください。

⑧《プライオリティ機能》

「F」＋「8」→プライオリティ機能＝優先的に受信したい周波数を受信する機能です。5秒に1度プライオリティチャンネルを受信します。

⑨《ビープ音》

「F」＋「9」→ビープ音機能＝【3】〔11〕の項をお読みください。

⑩《パス設定機能》

「F」＋「CLR」→パス機能＝「PMS」キーを押してプログラムスキャン中にあらかじめ設定した周波数を聞かずに、その周波数を飛ばしてスキャンをします。

⑩－①あらかじめ「⑤－①～⑤－⑦」までの設定を行っておきます。

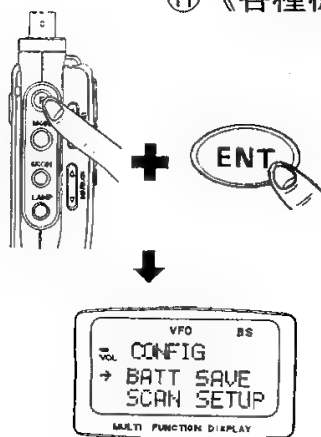
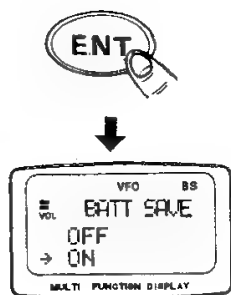
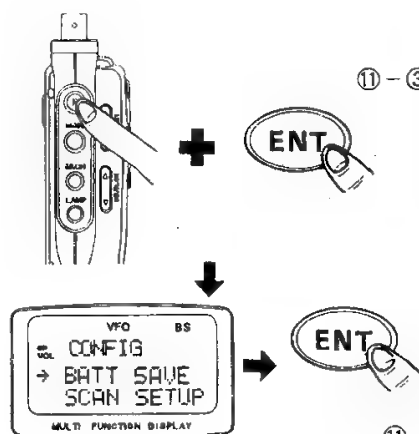
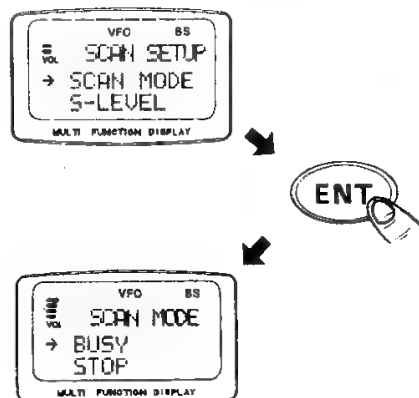
⑩－②「PMS」キーを押して、⑩－①で設定した周波数を呼び出します。

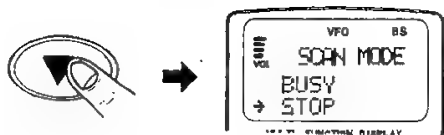
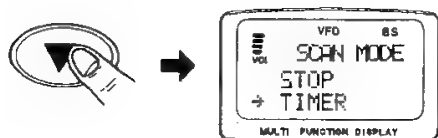
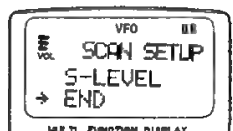
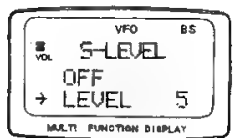
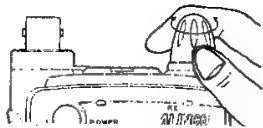
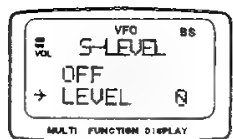
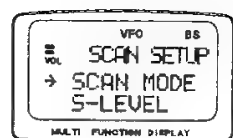
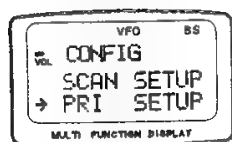
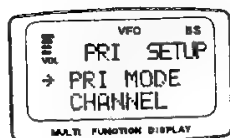
⑩－③スキャンが開始すると信号が入感してきます。このとき、もしその周波数を聞きたくないと思ったならば「CLR」キーを押します。

⑩－④前項で聞きたくない周波数を設定したならば、「F」キーを押して（または押しながら）「CLR」キーを押すと、表示部に先ほど聞きたくないとして設定した周波数が表示されます。もしここで設定した周波数を復活させて、聞くようにしたい場合は、矢印をその周波数の所に「▲」キーあるいは「▼」キーを用いて持って行きます。そしてそこで「CLR」キーを押すと、その周波数は設定から消えます。なお、設定した周波数の確認は「▼」キーあるいは「▲」キーを押すことで確認できます。なお、パスすることができる周波数は1プログラムで50件までです。

⑪《各種機能設定》

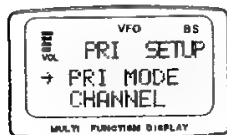
「F」＋「ENT」→各種機能の設定＝［USER LEVEL］［LANGUAGE］［BATT SAVE］［SCAN SETUP］［PRI SETUP］の各種機能を設定できます。

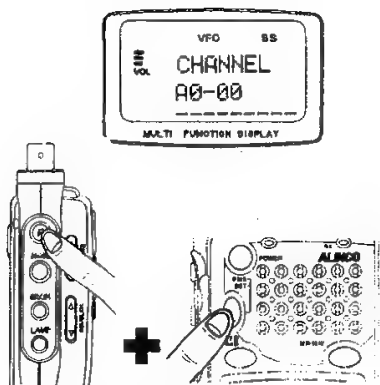
⑪－①［USER LEVEL］＝【3】の項をお読みください。

⑪－② [BATT SAVE] =ダイヤルを回すか、または「▲」/「▼」キーを押して、矢印をこの項目の所に合わせます。「ENT」キーを押すと、[OFF] [ON]と表示されますので、バッテリーセーブ機能を動作させる場合には[ON]に「▼」キーを押して矢印を合わせます。もしこの機能を動作させない場合は、[OFF]の所に矢印を持って行きます。どちらかに決定したら「ENT」キーを押します。次に「▼」キーを押して[END]の所に矢印を合わせ「ENT」キーを押して終了です。

⑪－③ [SCAN SETUP] =この項目に矢印があるとき、「ENT」キーを押すと、[SCAN MODE] [S-LEVEL]の各項目が表示されます。各項目の選択方法は「▲」キーあるいは「▼」キーを押して、目的の項目の所に矢印を合わせます。そこで「ENT」キーを押しますと下記の項目が表示されますので、そこでも目的とする項目の所に矢印を合わせ、「ENT」キーを押して決定します。

⑪－③－① [BUSY] =ビジースキャンを行う設定ですので、これを選択すると「SCN」キーを押した場合、[BUSY SCAN] を行い、信号が出ている周波数があると、その信号が無くなるまでその周波数で停止します。

⑪−③−② [STOP] ＝スキャン中に信号が入るとその周波数でスキャンを停止します。これは信号が無くなってもスキャンを開始することはありません。

⑪−③−③ [TIMER] ＝スキャン中信号が入ると、その周波数で５秒間スキャンを停止し、信号が入り続けていても５秒後にはまたスキャンを開始します。

⑪−③−④ [S－LEVEL] ＝スキャン中あらかじめ設定されたＳメータレベル以上の信号が入ってきた時にスキャンが停止します。[S－LEVEL]の所に矢印を合わせます。ここで「ENT」キーを押すと、[OFF]と[LEVEL 0]と表示されます。ここでこの機能を使用しない場合は[OFF]に矢印を合わせ、「ENT」キーを押します。そして「▼」キーを押して矢印を[END]に合わせ、「ENT」キーを押します。この機能を使用する場合は、「▼」キーを押して、矢印を[LEVEL 0]に合わすと、カーソルが[0]の所で点滅しますので、ダイヤルを回して[0〜7]の間で設定します。なお、7というのは信号が強いことを意味して、これで設定しますと、かなり強力な信号でない限りスキャンは停止しないことになります。Ｓレベルを設定しましたら、「ENT」キーを押します。次に「▼」キーを押して[END]の所に矢印を合わせ、再度「ENT」キーを押して設定は終了です。

⑪－④ [PRI SETUP] ＝プライオリティの設定項目です。
優先的に受信したい周波数を設定したときに働く機能です。上記の表示のときに「ENT」キーを押すと [PRI MODE] と [CHANNEL] と表示されます。

※ [PRI MODE] で「ENT」キーを押しますと、次のような表示が出ますので、「▲」／「▼」キーを押して矢印を目的の項目に合わせます。

⑪－④－① [BUSY] ＝プライオリティ周波数でそこの信号が無くなるまで受信し続けます。

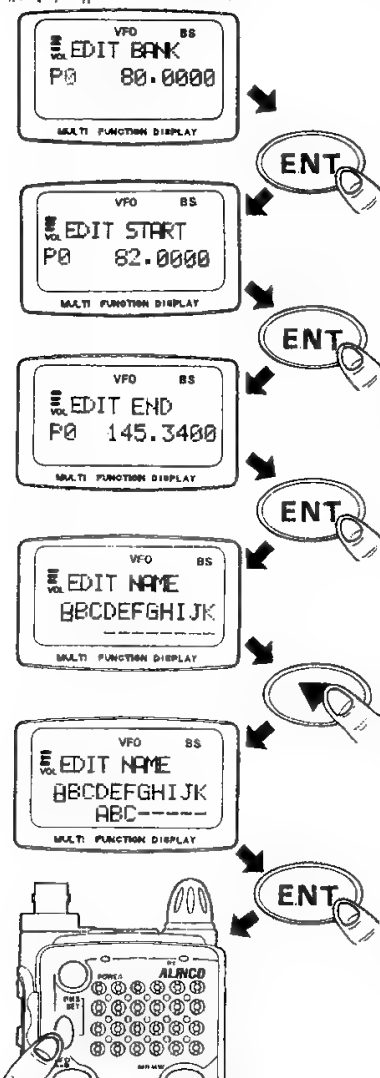
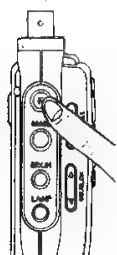
⑪－④－② [STOP] ＝受信信号が無くなってもその周波数を受信し続けます。

⑪－④－③ [TIMER]＝ここに設定すると、5秒間プライオリティ周波数を受信します。これらの設定が終了すると「ENT」キーを押します。「▼」キーを押して矢印を[END]に合わせ「ENT」キーを押して設定は終了です。

※ [CHANNEL] にして「ENT」キーを押しますと次の表示が出ます。

⑪－④－④ [CHANNEL] ＝これはバンクとチャンネルの設定です。ダイヤルを回して目的のバンク

番号にします。カーソル位置の変更は「▲」／「▼」キーを押して変更します。バンクとチャンネル番号を設定したら「ENT」キー、「▼」キーを押し、矢印を[END]に合わせ「ENT」キーを押して設定は終了です。

⑫《プログラムスキャン設定》

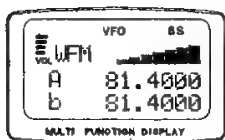
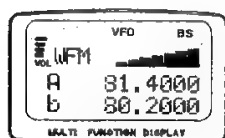
「F」＋「PMS／SET」→プログラムスキャンの設定＝あらかじめVFOモードでスキャンをする周波数を設定します。「F」キーを押して（または押しながら）「PMS」キーを押します。[EDIT BANK] と表示されて、[P0] に周波数が表示されます。カーソルが [0] の所にありますので、ダイヤルを回し適当なバンク番号を設定します。「・」キーを押すと「P」「p」が換わります。

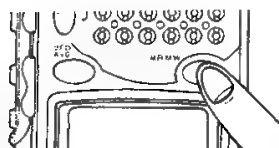
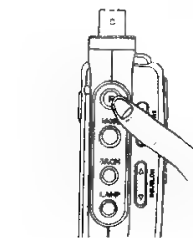
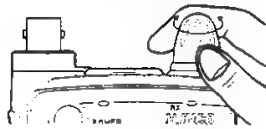
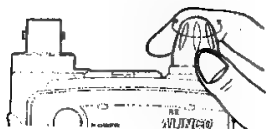
次に「ENT」キーを押すと、[EDIT START]と表示されます。そして先ほど設定したバンク番号の所に周波数が表示されます。ここでまた、「ENT」キーを押すと[EDIT END]と表示されて、周波数が表示されます。次にまた、「ENT」キーを押すと[EDIT NAME]と表示されて、そのスキャンの名前などを入力することができます。これはダイヤルを回すことで、アルファベット大文字、アルファベット小文字、カタカナ、カタカナ小文字、数字、記号の順に表示されますので、必要な記号を「▼」キーを押し決定します。また、「F」キーを押しながらダイヤルを回すと、行単位で文字がすばやく選択できます。なお、「▲」キーを押すことで1文字取り消しすることができます。最大8文字まで入力することができます。それらが決定したならば、「ENT」キーを押します。VFOモードに戻りますので、「PMS」キーを押すと先ほど設定した周波数範囲でスキャンを開始します。スキャン方向の変更はダイヤルを回すか、または「▲」/「▼」キーを押すことで変更することができます。なお、「PMS」キーを押したときに目的のバンク番号が表示されなかった場合は、各数字キーを押すことで目的のバンク番号を設定することができます。VFOモードに戻るとき

は「VFO」キーを押します。

⑬《デュアルVFOコピー》

「F」+「VFO」→デュアルVFOコピー機能＝上段の大文字表示の周波数（動作中の周波数）を他方へコピーします。

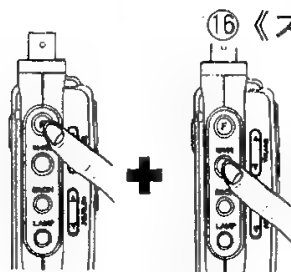
例）　A　　81.4000

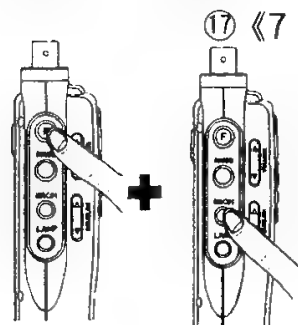
　　　B　　80.2000の時は

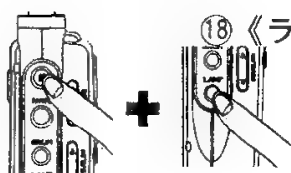
Aがbにコピーされて左図のように表示されます。

⑭《メモリの書き込み》

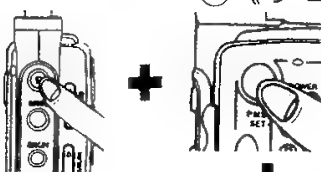
「F」+「MR/MW」→メモリの書き込み機能=まず、VFOモードでメモリしたい周波数を設定します。次に、「F」キーを押し（または押しながら）「MR」キーを押します。[EDIT BANK]と表示され、バンク番号のカーソルが点滅します。このバンクは[A0～A9][B0～B9][C0～C9]まで選択することができます。これはダイヤルを回すか、直接数字キーでも選択することができます。次にその下に表示されている番号は「▼」キーを押すと、カーソルが下の番号の所に移動しますので、これもダイヤルを回すか、直接数字キーで番号を選択・入力することができます。例えばバンク[A5]の[22]チャンネル目にメモリするとしたならば、ダイヤルを回してバンク番号を[A5]にして、「▼」キーを押してカーソルをチャンネル表示の位置に移動して、ここでダイヤルを回すか、「2」「2」と数字キーを入力します。このようにしてメモリするバンクとチ

ャンネルが決まりましたら、「ENT」キーを押します。[EDIT NAME]と表示が出て、文字が表示されます。ここでメモリする周波数に名前を入れることができます。この文字はダイヤルを回すことで、アルファベット大文字、アルファベット小文字、カタカナ、カタカナ小文字、数字、記号の順に表示されます。目的の文字や記号が決まりましたら、「▼」キーを押します。もし選択間違いなどで取り消したいときは、「▲」キーを押します。最大8文字まで文字や記号、数字などを選ぶことができます。(何も選ばないこともできます)。この選択が終了すると、「ENT」キーを押します。これでメモリの書き込みは終了です。試しにメモリが正しく入力されているかどうかを確認するためには「MR」キーを押して、バンクとチャンネル番号を設定してみましょう。なお、メモリモードからVFOモードに戻るときは「VFO」キーを押します。

⑮《スキップ機能》

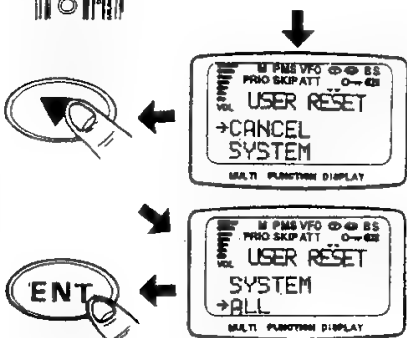
エキスパートモードでメモリモード時、メモリスキャンでスキップしたいチャンネルがある場合、そのチャンネルを選んでFを押しながら「CLR」キーを押すとSKIPが表示され、メモリスキャン時にそのチャンネルスキップするように設定できます。設定を解除するにはSKIP設定されているチャンネルで再度CLRキーまたはFキーを押しながら「CLR」キーを押します。

⑯《スケルチオープン機能》

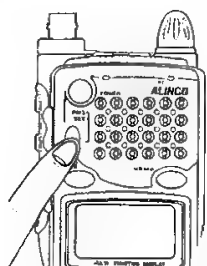
「F」＋「MONI」→スケルチオープン機能＝「F」キーを押して（または押しながら）本体左脇の「MONI」キーを押します。スケルチはMONIキーから指が離れても開放され続けます。スケルチを閉じるにはもう一度「MONI」キーを押します。

⑰《7チャンネルスコープ機能》

「F」＋「SRCH」→7チャンネルスコープ＝「F」キーを押して（または押しながら）「SRCH」キーを押すと表示部に7チャンネル分のチャンネルスコープが表示されます。この機能の解除はもう一度「SRCH」キーを押します。なお、「SRCH」キーを単独で押した場合は40チャンネル分のチャンネルスコープをします。

⑱《ランプ機能》

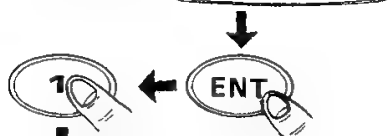
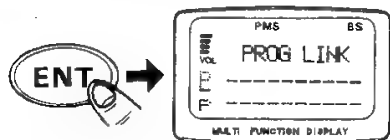
「F」＋「LAMP」→ランプ機能＝【3】〔10〕の項をお読みください。

⑲《リセット機能》

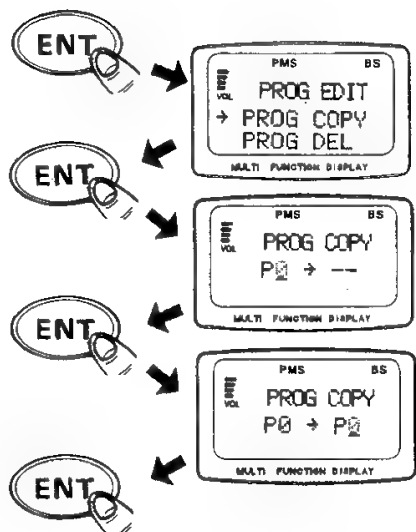
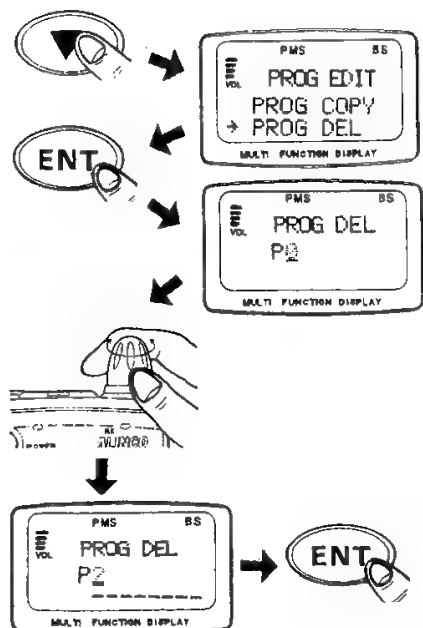
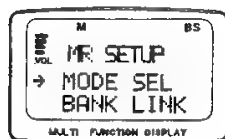
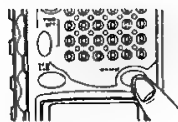
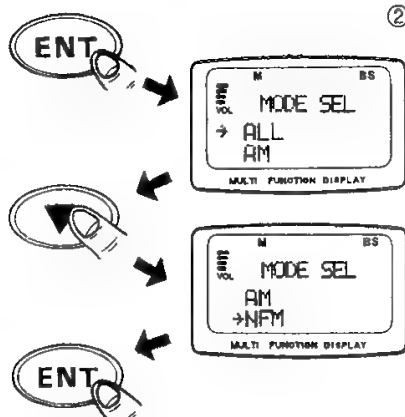
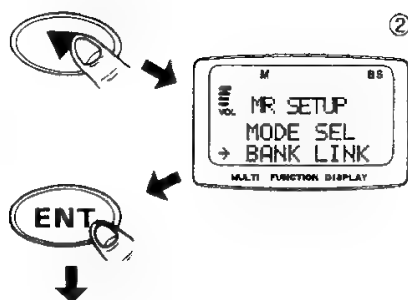
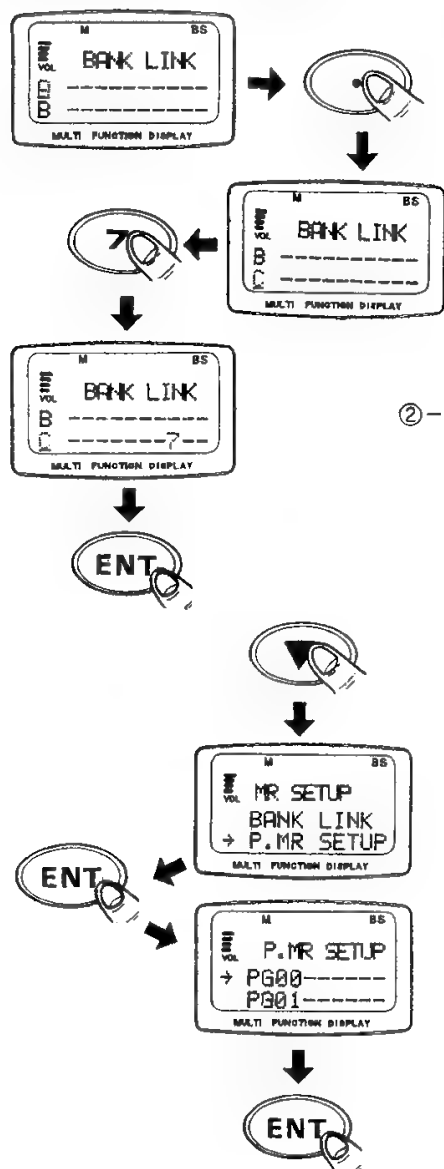
「F」＋「POWER」→リセット機能＝「F」キーを押して（または押しながら）「POWER」キーを押して電源を入れると、[USER RESET]と表示されて、[CANCEL][SYSTEM][ALL]と表示されます。
[CANCEL]はリセットしないということです。[SYSTEM]は機能設定されているところが初期化され、メモリチャンネルの内容は保存されます。[ALL]は全てのメモリや今まで設定した項目が全て消えてしまいます。「▲」/「▼」キーを押して、矢印を必要な項目の所に合わせ、「ENT」キーを押して終了です。なお、この操作はプリプログラムされている全てのメモリなどが消えてしまいますので、ALLリセットを行う時には充分に注意して行ってください。

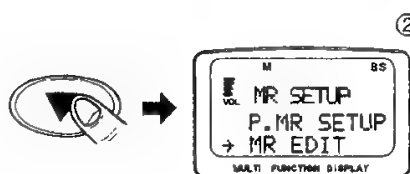
＃02

〔2〕「キゴウ！ キー1ビョウオシ

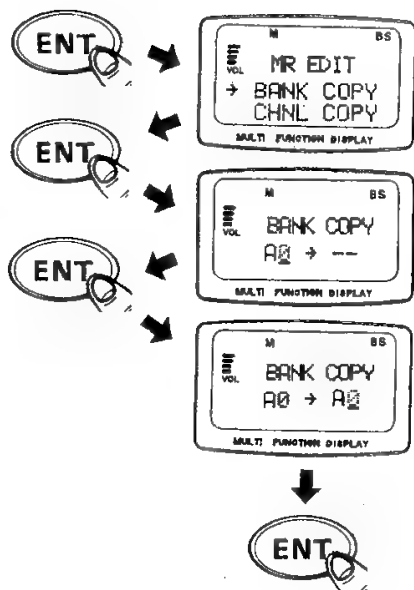
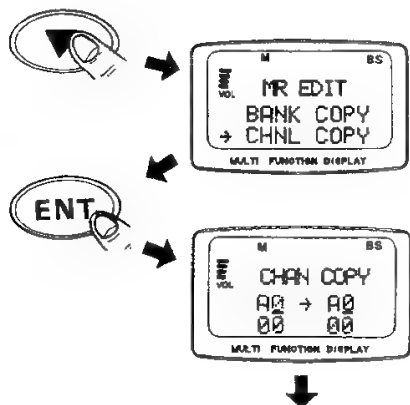
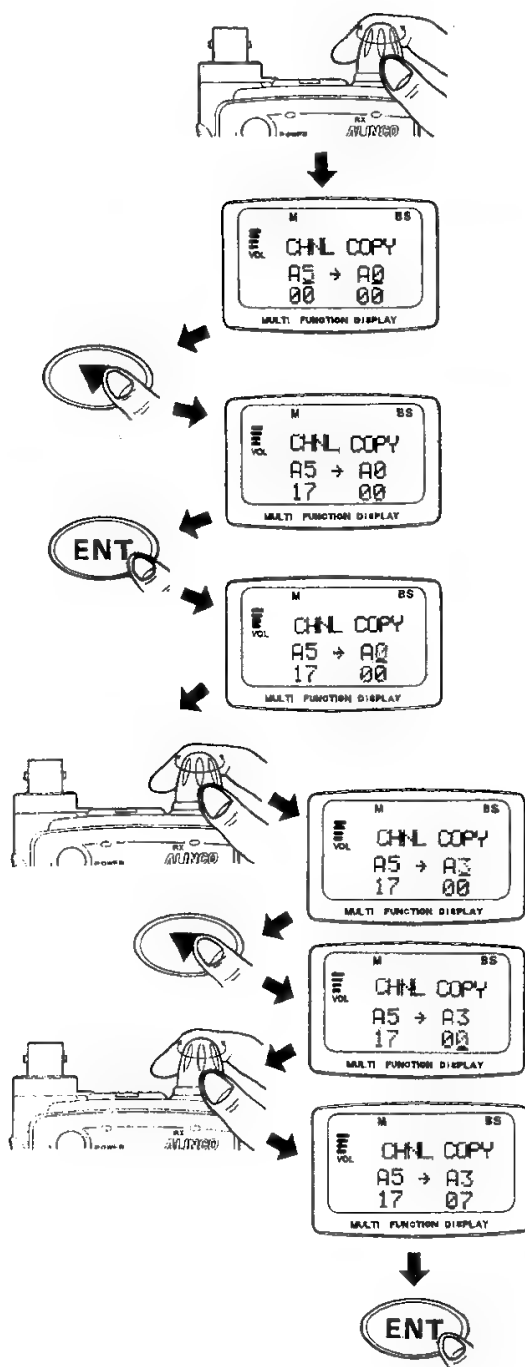
★各キーを1秒以上押すことで動作する項目を説明します。

①《プログラムスキャンの各種設定》

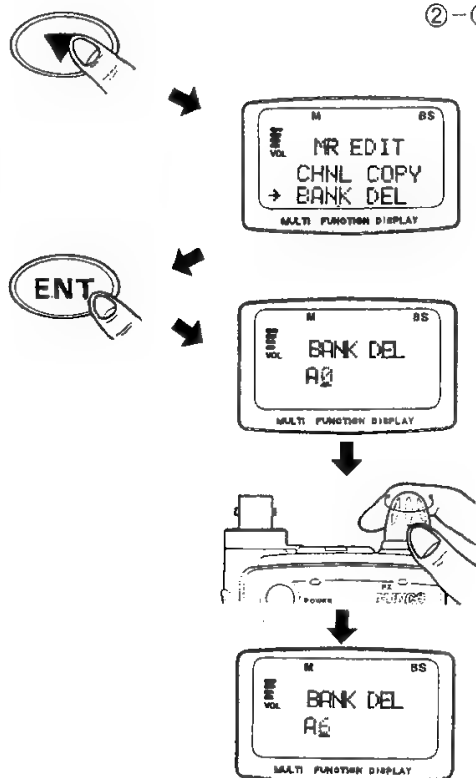
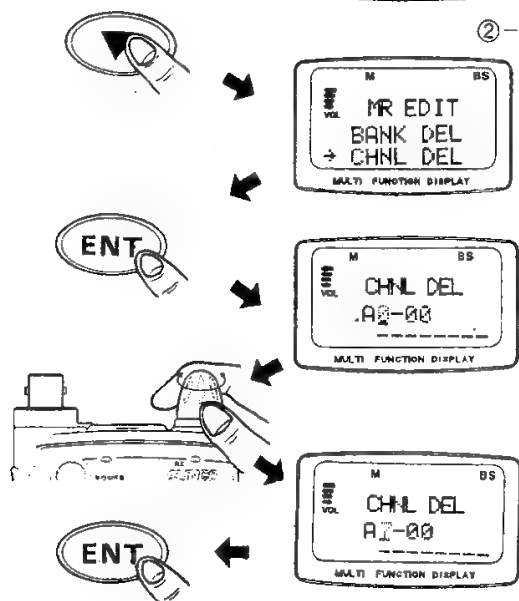
「PMS] キーを1秒以上押す→プログラムスキャンセットアップ＝まず【6】〔1〕⑫の説明に従って、プログラムスキャンをする範囲を設定しておきます。次に「PMS」キーを1秒以上押します。[PMS SETUP] [PROG LINK] [PROG EDIT] [END] と表示さますので、「▲」/「▼」キーを押して目的の項目に矢印を合わせます。きます。

①−① [PROG LINK] ＝あらかじめ入力したプログラムスキャン周波数範囲内、必要な範囲をスキャンするための機能です。矢印をPROG LINKに合わせ「ENT」キーを押します。カーソルがバンクの所で点滅します。ここで今まで設定したプログラムスキャンのバンク番号を入力します。例えば[P2]をスキャンしたい場合は「2」キーを押します。[P]バンクの全チャンネルをスキャンしたい場合は「0」キー〜「9」キーまでを全部入力します。チャンネルを決めたら「ENT」キー、「▼」キーと押し矢印を[END]に合わせ、「ENT」キーを押して設定は終了です。

①−② [PROG EDIT] ＝この項目には [PROG COPY] [PROG DEL] [END] の各項目が表示されます。

①-②-① [PROG COPY] = 「▲」キーあるいは「▼」キーを押し、矢印をこの項目に合わせます。次に「ENT」キーを押すと[P]バンクの番号の所でカーソルが点滅します。ここでコピーしたい情報を選択します。カーソルが点滅しているバンク番号を選択します。これはダイヤルを回しても、数字キーを押しても選択することができます。次に「ENT」キーを押し、コピー先を同じように決めます。それらが決定したら「ENT」、「▼」キーと押し、矢印を[END]に合わせ「ENT」キーを押します。ここでVFOモードに戻る時は「VFO」キーを押すことで戻ります。なお、バンク番号の設定をやり直したいときは「CLR」キーを押すことでカーソルが戻ります。

①-②-② [PROG DEL]=すでに設定されているプログラムを消すための機能です。「▲」/「▼」キーを押し[PROG DEL]にしたら「ENT」キーを押します。バンク番号の所にカーソルが点滅しますので、消去したいバンク番号 をダイヤルを回すか、数字キーを押してバンク番号を決定し、次に「ENT」キーを押します。

②《メモリ機能のセットアップ》

「MR／MW」キーを1秒以上押し続ける＝［MODE SEL］［BANK LINK］［P.MR SETUP］［MR EDIT］［END］の各項目が表示されます。メモリ機能の各種設定を行います。

②−① [MODE SEL] =モードセレクトスキャンのことで、電波形式によってスキャンをすることです。ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押して、矢印を[MODE SEL]に合わせます。次に「ENT」キーを押すと、[ALL] [AM] [NFM] [WFM] [USB] [LSB] [CW]と表示されます。[ALL]は全ての電波形式でスキャンをします。[AM] ではAMでメモリされているチャンネルのみをスキャンします。ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押してスキャンさせる電波形式を選択します。選択したならば「ENT」キー、「▼」キーを押し[END]に矢印を合わせ、「ENT」キーを押します。

②−② [BANK LINK] ＝メモリしてあるバンクの内、必要なバンクだけをスキャンする機能です。ダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押し矢印を[BANK LINK]に合わせます。次に「ENT」キーを押し、バンクの番号を設定します。バンクの変更は「.」キーを押すことで[A]〜[C]までのバンクに切り替えることができます。バンク番号は数字キーで直接入力します。もし間違えた数

字を押した場合は、その数字キーをもう一度押すことで取り消すことができます。例えば[B5]のバンクと[C7]のバンクをスキャンしたい場合、「.」「5」「.」「7」と入力します。なお、この場合選択したバンクにメモリが書き込まれていることが条件となります。

②−③ [PMR SETUP] =全メモリの中から最大100チャンネルを選んでメモリスキャンができます。スキャンのチャンネルをこのPMR SETUPで設定します。矢印をこの項目に合わせ、「.」キーを押しますとバンク番号にカーソルが点滅しますので、ダイヤルを回しバンク番号を決めます。次に「▲」/「▼」キーを押し、そのバンク番号内のチャンネルを決めます。これもダイヤルを回し決定します。なお、バンクの切り替えは「.」キーで行うことができます。バンクとバンク番号およびチャンネルが決まりましたら、「ENT」キーを押します。次の設定をしたい場合は「▼」キーを押し同じように設定します。この設定は全部で100件入力することができます。設定が終了したならば「ENT」キーを押します。「▼」キーを押し[END]に矢印を合わせ、「ENT」キーを押し終了です。取り消しの場合は「CLR」キーで取り消すことができます。メモリモードで「F」キーを押しながら「SCN」キーを押すとPMRでセットしたチャンネルのみスキャンします。

②−④ [MR EDIT] =この項目の中には [BANK COPY] [CHNL COPY] [BANK DEL] [CHNL DEL] [END] の各設定項目があります。

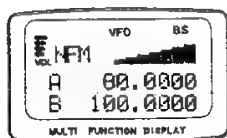
②－④－① [BANK COPY] ＝メモリの入っているバンクの情報を別のバンクに書き移す機能です。[BANK EDIT] の所に「▲」／「▼」キーを押して矢印を合わせ「ENT」キーを押します。「▲」/「▼」キーを押し矢印を[BANK COPY]に合わせます。「ENT」キーを押すと、バンク番号の所でカーソルが点滅しますので、ダイヤルを回すか、数字キーを直接入力してメモリ情報をコピーしたいバンク番号を決めます。なお、バンクの切り替えは「.」キーを押すことで切り替わります。次に「ENT」キーを押し、メモリ情報のコピー先を同じように決めます。なお、「CLR」キーを押すことでカーソル位置を前に戻すことができます。全ての設定が終了すると「ENT」キーを押します。次に「▼」キーを押し矢印を[END]に合わせ、再度「ENT」キーを押して設定は終了です。なお、VFOモードに戻るときは「VFO」キーを押します。

②－④－② [CHNL COPY]=[MR EDIT]に矢印を合わせ、「ENT」キー、「▼」キーを押し各バンクと[CHNL COPY]に矢印を合わせます。この機能は各バンク番号の中にメモリされている各メモリチャンネルを別のバンク及びバンク番号やチャンネルにコピーするものです。②-④-①の機能はバンク番号内にある全てのチャンネルを別のバンクやバンク番号にコピーしてしまう機能ですが、この機能はチャンネル単位でコピーすることができるというものです。[CHNL COIPY]のに矢印をあわせ「ENT」キ

ーを押すとバンク番号の所でカーソルが点滅しますので、ダイヤルを回すか、数字キーを押してコピーしたいバンク番号を設定します。なお、バンクの変更は「.」キーを押すことでバンクを変更することができます。「▼」キーを押すことでカーソルがチャンネル番号の所に移動します。ここでダイヤルを回してチャンネル数を設定します。ここまでで、もしバンクとバンク番号を変更したい場合は「CLR」キーを押すことで、カーソルはバンク番号の所に戻ります。コピーしたいバンクとバンク番号及びチャンネルが決まると、「ENT」キーを押し、次はコピー先を同じ操作で決めます。全ての設定が終了しましたら「ENT」キーを押します。「▼」キーを押し矢印を[END]に合わせ、「ENT」キーを押します。なお、VFOモードに戻る場合は「VFO」キーを押します。

②－④－③ [BANK DEL] ＝バンク番号内の全てのメモリを消去します。「▼」キーを押し矢印を[BANK DEL]に合わせ「ENT」キーを押します。バンク番号の所にカーソルが点滅しますので、ダイヤルを回すか、数字キーを押して直接バンク番号を設定します。なお、バンクの切り替えは「.」キーを押すことで切り替わります。メモリから消去したいバンクとバンク番号が決まりましたら「ENT」キーを押します。「▼」キーを押し矢印を[END]に合わせ、「ENT」キーを押して設定は終了です。なお、VFOモードの戻りたい場合は「VFO」キーを押します。」

②－④－④ [CHNL DEL] ＝前項のようにバンク内の全てのメモリを消去するのではなく、バンク内の特定のチャンネルのメモリだけを消去する機能です。[CHNL DEL]に「▼」キーを押して矢印を合わせます。次に「ENT」キーを押しますと、バンク番号の所にカーソルが点滅しますので、消去したいチャンネルのバンク番号をダイヤルを回するか、数字キーで直接入力します。次に「▼」キーを押すとチャンネルの所にカーソルが移動しますので、消去したいメモリチャンネルをダイヤルを回すか、数字キーで直接入力します（このとき、02を入力するには「0」「2」と入力します)。なお、ここでバンク及びバンク番号を

再度設定しなおしたい場合は「▲」キーを押すことでカーソルがバンク番号に移動します。設定が終了したら「ENT」キーを押します。「▼」キーを押し[END]に矢印を合わせ、「ENT」キーを押しメモリの消去は終了です。なお、VFOモードに戻りたい場合は「VFO」キーを押します。

③《VFOリンク機能》

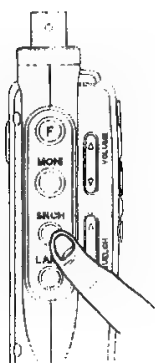
この機能は[A] VFOの周波数の変化に連動して[B] VFOの周波数も同じように変化する機能です。

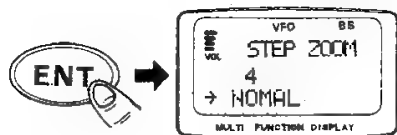
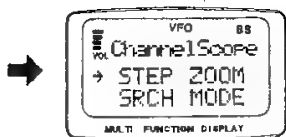
③－① [A] VFOの周波数を任意の周波数に設定します。次に、「VFO」キーを押し、VFO [B]にして連動したい周波数の設定をします。そして再度「VFO」キーを押しVFO [A]にします。

③－②「F」キーを押し（または押しながら）「.」キーを押しますと[LINK SET]と[OFF]、[ON]が表示されます。矢印をダイヤルを回すか、「▲」/「▼」キーを押して[ON]に合わせ、次に「ENT」キーを押すとリンク機能状態となります。

③－③表示部のVFO表示が両方とも大文字になります。

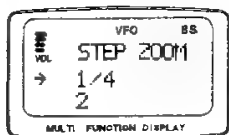
③－④ダイヤルを回すか、「▲」/「▼」キーを押し[A] VFOの周波数を変更しますと同時に[B]VFOの周波数も同じ周波数ステップで変更されていきます。

③－⑤この機能の解除はVFOリンク設定のメニューでOFFに矢印を合わせ、ENTキーを押します。

※下段のリンクされた周波数は上段の受信周波数によっては本機の周波数範囲（2000MHz以上）を越えることがありますが、その場合、「VFO」キーを押して上段下段を入れ替えた時点でVFOリンクは解除され、VFOリンク設定前の周波数に戻ります。

④《チャンネルスコープ機能》

「SRCH」キーを1秒以上押し続けますと［Channel Scope］機能が動作します。

④－①［STEP ZOOM］＝サーチするステップ幅を変える機能です。

④－①－①［1／2］＝周波数ステップ幅を1／2倍にしてサーチします。

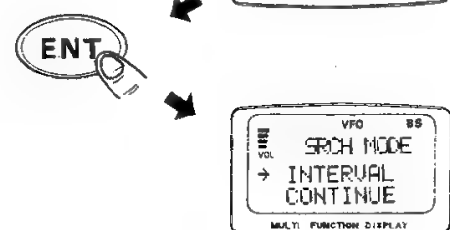
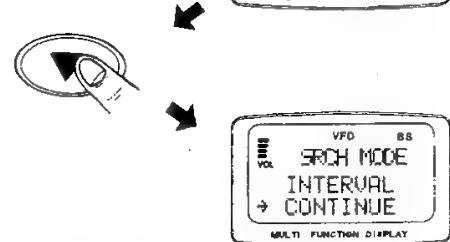
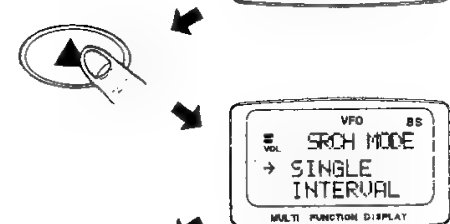
VFO BS
STEP ZOOM
→ 1/4
2
MULTI FUNCTION DISPLAY

④－①－②［1／4］＝周波数ステップ幅を1／4倍にしてサーチします。

④－①－③［2］＝周波数ステップ幅を2倍にしてサーチします。

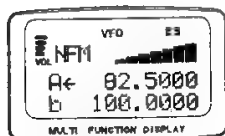
④－①－④［4］＝周波数ステップ幅を4倍にしてサーチします。

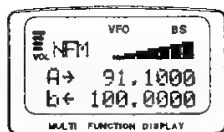
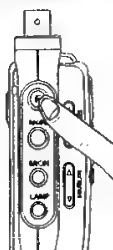
④－①－⑤［NORM］＝現在の周波数ステップ幅でサーチします。

※サーチズーム機能はサーチモードCONTINUEを選択時のみ動作します。

④－②［SRCH MODE］＝サーチ表示状態を選択する機能です。次の機能を選択するには、ロータリーエンコーダーを回すか、「▲」/「▼」キーを押して、矢印を選択したい項目に合わせ、「ENT」キーを押します。その後［END］に矢印を合わせ「ENT」キーを押し設定終了です。

④－②－①［INTERVAL］＝10秒に1度サーチを行います。

④－②－②［CONTINUE］＝連続でサーチします。この時、音は出ません。

④－②－③［SINGLE］＝「SCAN」キーを押した時、1度だけサーチを行い、サーチを解除して再度「SRCH」キーを押されるまで更新されません。

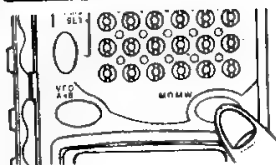
〔3〕スキャン機能

 # 08　《スキャン機能》

① [ノーマルスキャン] = 「SCN」キーを押すことでスキャンを開始します。スキャン方向の変更はダイヤルまたは「▲」／「▼」キーを押すことで変更することができます。 なお、スキャンする周波数ステップは受信している周波数帯により変化します。この周波数ステップの変更は〔1〕②をお読みください。解除は「SCN」キーを押します。

 # 09

② [ABスキャン] = VFO [A] とVFO [b] あるいはVFO [B] とVFO [a] の表示されている周波数間をスキャンします。操作は「F」キーを押し（または押しながら）「SCN」キーを押します。両VFOに矢印が表示されスキャンを開始します。スキャン方向の変更はダイヤルまたは「▲」/「▼」キーを押すことで変更することができます。解除は「SCN」キーを押します。

 # 10

③ [モードスキャン]

③−① [モードスキャン] = 【6】〔2〕②−①をお読みください。

③−② [スキャンスタート]=「MR」キーを押し、次に「SCN」キーを押すことでメモリの入力されているチャンネルをスキャンします。解除はもう一度「SCN」キーを押すことで解除されます。

〔4〕パス機能

＃12 《パス機能》

① [パスセット] = 【6】〔1〕⑩をお読みください。

＃13

① [パスヘンシュウ] = 【6】〔1〕⑩をお読みください。

〔5〕オートメモリライト機能

＃14 《オートメモリライト機能》

① [オートメモリライト] = 【6】〔1〕⑤をお読みください。

〔6〕エキスパートモード

＃15

《エキスパートモード》

① [エキスパート] = 【5】の項をお読みください。

〔7〕リンク機能

＃16 《リンク機能》

① [MRリンク] = [BANK LINK] = 【6】〔2〕②−②をお読みください。

＃17

② [PMSリンク] = [PROG LINK] = 【6】〔2〕①－①をお読みください。

＃18

③ [VFOリンク] = 【6】〔2〕③をお読みください。

〔8〕タイマー機能

＃19 《タイマー機能》

① [オンタイマー] = 【3】〔13〕④をお読みください。

＃20

② [オフタイマー] = 【3】〔13〕③をお読みください。

〔9〕トケイ機能

＃21 《トケイ機能》

① [ディスプレイ] = 【3】〔13〕⑤をお読みください。

＃22

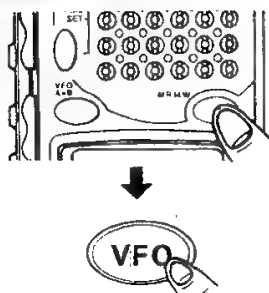
② [セット] = 【3】〔13〕⑤をお読みください。

〔10〕コピー機能

＃23 《コピー機能》

① [VFOコピー] = 【3】〔6〕④をお読みください。

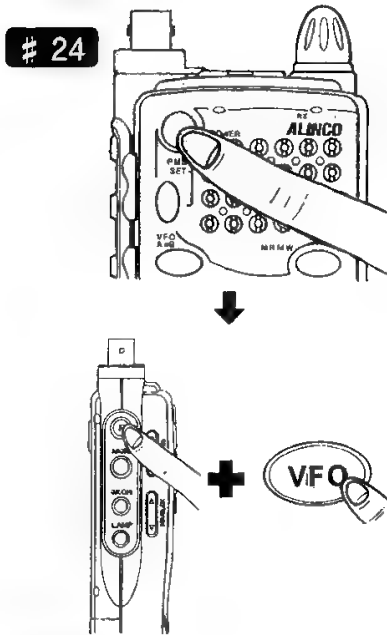
＃24

② [MR→VFO] =メモリーに入っている周波数をVFO表示するためのものです。

②－①「MR」キーを押しメモリーモードにします。今までメモリーしたバンクとチャンネルを合わせます。

②－② 次に「F」キーを押し（または押しながら）「VFO」キーを押しますと、VFOモードで大文字になっているVFOにそのメモリー周波数が表示されます。

②－③「VFO」キーを押し、「A」VFOと「b」VFOを切り替えて「B」VFOにしても上記と同じ操作をすることができます。

③ [PMS→VFO]=PMSモードでスキャン中に「F」キーを押し（または押しながら）「VFO」キーを押しますと、VFOモードで動作している（大文字で表示）VFOスキャン中のその瞬間の周波数が表示されます。

♯ 25

④ [MRバンクコピー] = 【6】〔2〕②－④－①をお読みください。

♯ 26

⑤ [PMSコピー] = 【6】〔2〕①－②－①をお読みください。

♯ 27

⑥ [MR CHコピー] = 【6】〔2〕②－④－②をお読みください。

〔11〕デリート機能

＃28　《デリート機能》

① [メモリーバンク] = 【6】〔2〕②-④-③をお読みください。

＃29

② [メモリーCH] = 【6】〔2〕②-④-④をお読みください。

＃30

③ [PMS] = 【6】〔2〕①-②-②をお読みください。

〔12〕PMR

《プログラムメモリスキャン機能》

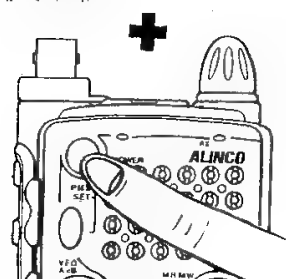
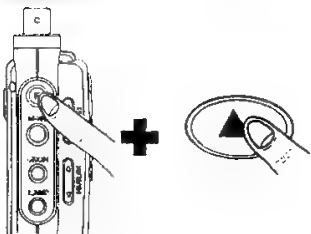
＃31　《PMR》

① [トウロク] = 【6】〔2〕②-③をお読みください。

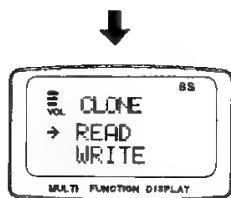
＃32

② [スタート] = ＃31の項目のスタートをさせるための操作で、メモリーモードから「F」キーを押し（またはおしながら）「SCN」キーを押すことでスタートします。

〔13〕クローン

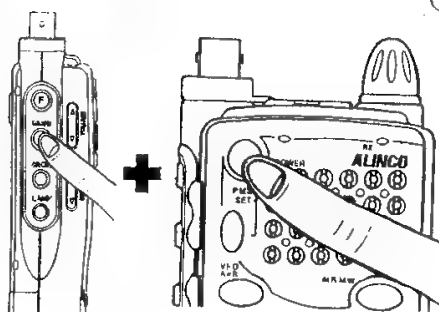
＃33　《クローン》

① [クローン]=2.5Φステレオプラグで接続されたケーブルでDJ-10Xを2台接続すると、セット間の全てのメモリ内容をコピー（クローン）することが可能となります。

①-①ケーブルで2台を接続後、「F」キーと「▲」キーを押しながら「PWR」キーを押して電源を入れます。
＊自分のセットのみクローンモードにする。

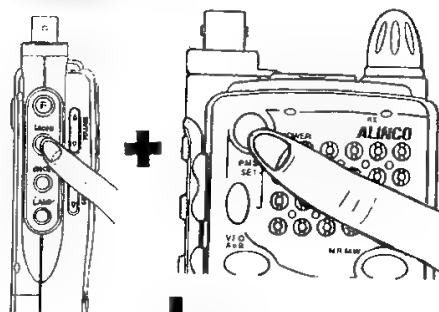
①-② [CLONE] と [READ] [WRITE] と表示されます。[READ] は相手のセットより自分のセットへメモリーをコピーします。[WRITE] は自

分のセットより相手のセットへコピーができます。これらをダイヤルを回すか、「▲」/「▼」キーを押して選択します。選択後「ENT」キーを押すとコピー（クローン）を開始します。
この機能を終了するには1度電源を切ります。

※クローン中はREAD、WRITEを高速に交互に表示します。
※クローン中は絶対にケーブルを抜いたり、電源を切ったりしないでください。メモリーが全て初期化されます。

[14] ディスプレイ

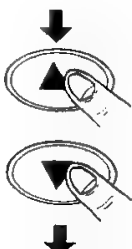
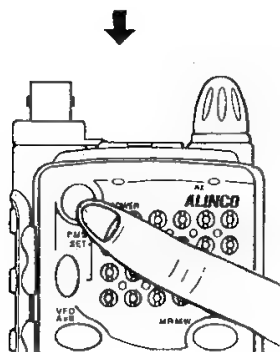
＃34 《ディスプレイ》

①[デモモード]＝店頭展示用のディスプレーデモモードです。

①－①まず一旦電源を切り、「MONI」キーを押しながら「POWER」キーを押して電源を入れることでこのモードになります。このモードになりますと、全てのキー操作ができなくなります

①－②このモードの解除は一旦電源を切って、再度電源を入れることによりVFOモードに戻ります。

② [LCDコントラスト] ＝表示部分のコントラストを調整することができます。

②－①まず一旦電源を切り、「MONI」キーを押しながら「POWER」キーを押して電源を入れ、デモモードにします。

②－②次に「▲」／「▼」キーを押して、各自の好みのコントラストに調整します。

②－③ここで電源を切り、再度「POWER」キーを押して電源を入れて、この設定は終了となります。

〔15〕 M・TUNE

＃36　《M・TUNE》

① [M・TUNE] ＝メモリーモードまたはPMSモードのままで他の周波数の選択をすることができます。

①－①「MR」キーを押してメモリーモードにします。①－②「ENT」キーを押しますと、表示部には周波数表示およびM.TUNEと表示されますので、ここでダイヤルを回すか、数字キーを押すことで周波数を選択、受信することができます。

①－③PMSモードのときも同じ操作で同じ動作をさせることができます。

〔16〕 トウロク

＃37　《トウロク》

① [メモリ—MR] ＝【6】〔1〕⑭をお読みください。

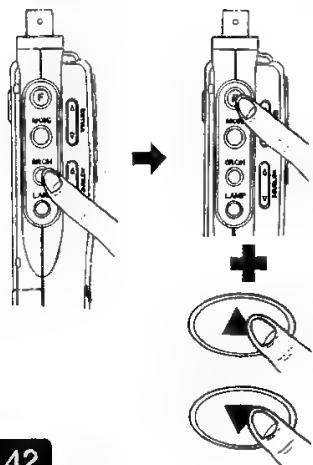
 # 38

② [プログラムPMS] = 【6】〔1〕⑫および【6】〔2〕①をお読みください。

〔17〕 スコープ

 # 39　《スコープ》

① [サーチ] = 【3】〔8〕をお読みください。

 # 40

② [ズーム] = 【6】〔2〕④−①をお読みください。

 # 41

③ [ピークサーチ] =各モードで受信中に受信信号の一番強い所に周波数が移動します。

③-①「F」キーを押し、サーチモードにします。

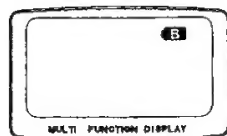
 # 42

③-②「F」キーを押し、(または押しながら)「▲」/「▼」キーを押すことによりチャンネルスコープ中に表示されている信号の一番強い周波数に移動します。「F」キーと「▲」キーを押した時はサーチ表示の中心より右側(受信している周波数より高い周波数)に表示されているもっとも信号の強い周波数に移動します。「F」キーと「▼」キーを押した時は、サーチ表示の中心より左側(受信している周波数より低い周波数)に表示されているもっとも信号の強い周波数に移動します。同じように強い信号が複数ある場合は、中心に近い周波数へ移行します。

④ [サーチモード] = 【6】〔2〕④−②をお読みください。

【7】バッテリー切れ警告

★バッテリー電圧が低くなりますと、「ピーポ、ピーポ」という警告音と共に表示部にバッテリーマークが点灯しますので、このときは早めにバッテリーを交換してください。

※BEEP OFFに設定されていると警告音は鳴りません。

【8】保守について

〔1〕アフターサービス

①保証書：保証書は必ず所定事項（ご購入販売店名、ご購入日）の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

②保証期間：保証期間はお買い上げの日より1年間です。正常なご使用状態で、この期間内に万一故障が生じた場合は、誠にお手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。保証書の規定に従って修理致します。

③保証期間経過後の修理：保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理致します。

④アフターサービス：アフターサービスについてのご不明な点は、お買い上げいただいた販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

〔2〕故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源スイッチを入れてもディスプレイに何も表示されない。	●電池の＋、－の極性は逆になっていませんか？ ●古い電池を使用していませんか？ ●バッテリーケースの接触不良	●電池の極性をよく確認して、電池を入れなおします。 ●新しい乾電池と交換します。 ●バッテリーケースや電池の汚れなどを確認してください。
スピーカーから音が出てこない。	●ボリュームの調整はできていますか？ ●スケルチの調整はできていますか？	●本体側面にあるVOLUMEキーの▲を押してボリュームを上げてみます。 ●本体左側面にあるSQELCHキーの▼を押し、いったんノイズの出るところまでセットしてみます。そして、ノイズの聞こえなくなる点まで再セットします。詳しくは【3】〔4〕を参照してください。
受信できない	●アンテナが正しく付いていますか？	●本書のアンテナの取り付け方を参照して確実に取り付けてください。
周波数や各種設定が行え	●キーロック機能が働いていませんか？	●キーロック機能を解除してください。
一部の機能が使えない	●ビギナーモードになっていませんか？	●ユーザーレベルをエキスパートに変更する。
ピーポー･ピーポーという警告音が鳴ったり、表示が消えたりする。	●電池が消耗していませんか？	●ディスプレイに B マークが表示されたら電池を交換してください。
音が途切れる	●チャンネルスコープになっていませんか？	●Sメータ表示にして下さい。

【9】オプション

★本機には、次のようなオプションがあります。

●EBP-33N：ニカドバッテリパック（4.8V　650mAH）￥4,500
●EBP-34N：ニカドバッテリパック（4.8V　1200mAH）￥6,800
●EBP-37N：ニカドバッテリパック（4.8V　700mAH）￥4,000 標準装備品
●EDC-36：アクティブフィルター付シガーライターケーブル　￥2,000
●EDC-62：バッテリーチャージャー（ウォールチャージャー）￥2,300 標準装備品
●EDC-59：バッテリーチャージャー（急速型）￥9,800
●EME-6：プチ型イヤホン　￥1,500
●ESC-28：ソフトケース（ショートサイズ）￥,2000
●ESC-29：ソフトケース（標準サイズ）￥2,000
●ESC-30：ソフトケース（ロングサイズ）￥2,000
●EBC-6：モービルブラケット　￥1,800
●DM-003：外部DC電源　￥8,800
●EDC-37：基地局用DCケーブル　￥800

ヘルプ機能一覧表

ヘルプ番号	「F」+「4」→「▲」/「▼」	「ENT」→「▲」/「▼」	「ENT」	説明書項目	ページ
#01	ヘルプ	キゴウ&	2キードウジオシ	【6】〔1〕	26
#02	ヘルプ	キゴウ!	キー1ビョウオシ	【6】〔2〕	38
#03	ヘルプ	キゴウ#	トリセツサクイン	—	—
#04	ヘルプ	キゴウ→	センタク　マタハ　ツギノドウサ	—	—
#05	ヘルプ	キゴウ+	アップ　キー	—	—
#06	ヘルプ	キゴウ-	ダウン　キー	—	—
#07	ヘルプ	キゴウor	マタハノイミ	—	—
#08	スキャン	ノーマル スキャン	MR→SCN VFO→SCN	【6】〔3〕	48
#09	スキャン	ABスキャン	VFO→F&SCN	【6】〔3〕	48
#10	スキャン	モード スキャン	モードセレクト MR!→MODELSEL	【6】〔3〕	48
#11	スキャン	モード スキャン	スキャンスタート MR→SCN	【6】〔3〕	49
#12	パス	セット	PMS→CLR	【6】〔4〕	49
#13	パス	パス ヘンシュウ	PMS→F&CLR	【6】〔4〕	49
#14	オート メモリライト	————	PMS→F&5 セレクト ON	【6】〔5〕	49
#15	エキスパート	————	F&ENT→USER	【5】〔1〕	25
#16	リンク	MRリンク	MR→BANK　LINK	【6】〔7〕	49
#17	リンク	PMSリンク	PMS!→PROG　LINK	【6】〔7〕	50
#18	リンク	VFOリンク	F&・	『2』③	45
#19	タイマー	オンタイマー	F&7→ON　TIME	【3】〔13〕	20
#20	タイマー	オフタイマー	F&7→OFF　TIME	【3】〔13〕	20
#21	トケイ	ディスプレイ	F&7→DISP	【3】〔13〕	19
#22	トケイ	セット	F&7→NOW	【3】〔13〕	19
#23	コピー	VFOコピー	VFO→F&VFO	【6】〔10〕	50
#24	コピー	MR→VFO	MR→F&VFO	【6】〔10〕	50
#25	コピー	PMS→VFO	PMS→F&VFO	【6】〔10〕	51
#26	コピー	MRバンクコピー	MR!→EDIT→BNK.COPY	【6】〔10〕	51
#27	コピー	PMSコピー	PMS!→EDIT→PMS.COPY	【6】〔10〕	51
#28	コピー	MR CH コピー	MR!→EDIT→CH.COPY	【6】〔10〕	51
#29	デリート	メモリー バンク	MR!→EDIT→BNK.DEL	【6】〔11〕	52
#30	デリート	メモリーCH	MR!→EDIT→CH.DEL	【6】〔11〕	52
#31	デリート	PMS	PMS!→EDIT→PMS.DEL	【6】〔11〕	52
#32	PMR	トウロク	MR!→PMR	【6】〔12〕	52
#33	PMR	スタート	MR→F&SCN	【6】〔12〕	52
#34	クローン	————	PWR OFF→F&+PWR	【6】〔13〕	52
#35	ディスプレイ	デモモード	PWR OFF→MONI&PWR	【6】〔14〕	53
#36	ディスプレイ	LCDコントラスト	デモモード→+or-	【6】〔14〕	53
#37	M.TUNE	————	MR→ENT PMS→ENT	【6】〔15〕	54
#38	トウロク	メモリーMR	VFO→F&MR	【6】〔16〕	54
#39	トウロク	プログラムPMS	VFO→F&PMS	【6】〔16〕	54
#40	スコープ	サーチ	F&SRCH→7CH SRCH→40CH	【6】〔17〕	55
#41	スコープ	ズーム	SRCH!→ZOOM	【6】〔17〕	55
#42	スコープ	ピークサーチ	SRCH→F&+or-	【6】〔17〕	55
#43	スコープ	サーチモード	SRCH!→MODE	【6】〔17〕	55

定格

受信周波数範囲	0.1MHz ～ 1999.999950MHz	
受信電波形式	WFM NFM AM USB LSB CW	
周波数ステップ	50Hz, 100Hz, 1kHz, 2kHz, 5kHz, 6.25kHz, 9kHz, 10kHz,12.5kHz, 15kHz, 20kHz, 25kHz, 30kHz, 50kHz, 100kHz,125kHz, 150kHz, 200kHz, 250kHz, 500kHz	
受信感度	AM	0.1～0.5MHz ………… 10μV（20dBμ） 0.5～5MHz ………… 1.5μV（3.5dBμ） 5～30MHz ………… 1μV（0dBμ） 30MHz～1000MHz ………… 1μV（0dBμ） （1kHz 30％mod 10dB S／N）
	SSB	0.5～5MHz ………… 0.5μV（－6dBμ） 5～30MHz ………… 0.25μV（－12dBμ） 30MHz～1000MHz ………… 0.5μV（－6dBμ） （10dB S／N）
※電気通信事業用周波数帯は除く。 ※感度数値はTyp値です。	NFM	5～30MHz ………… 0.35μV（－9dBμ） 30～1000MHz ………… 0.25μV（－12dBμ） 1000～1300MHz ………… 1.5μV（3.5dBμ） 1300MHz～1999MHz ………… 10μV（20dBμ） （1kHz 3.5kHz 12dB SINAD）
	WFM	30～1000MHz ………… 1.5μV（3.5dBμ） （12dB SINAD）
メモリーチャンネル	1200CH	
サーチパスメモリー	1000CH	
プライオリティチャンネル数	1CH（1200CH内任意設定可）	
プログラムスキャン	30バンク	
1バンクチャンネル数	40CH	
サーチバンド数	20組	
スキャンスピード	約25CH／1sec	
アンテナコネクタ	BNC 50Ω	
電源	4.8V DC（NICAD） 6V DC（単3乾電池）	
外部電源	8～15V DC	
定格出力	100mW以上 10％THD	
消費電流	定格出力時 約200mA 待機時 約140mA BS時 約30mA	
重量	約320g	
外形寸法	57×150×27.5mm	
動作保証温度	－10～50℃	
周波数安定度	±10ppm	

アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号日本橋プラザビル14階 ☎03-3278-5888
大阪営業所 〒540-8580 大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21 MIDタワー25階 ☎06-946-8140
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号第3博多偕成ビル7階 ☎092-473-8034
札幌営業所 ☎011-231-7712 名古屋営業所 ☎052-212-0541
仙台営業所 ☎022-221-8220 広島営業所 ☎082-222-0234

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日は除きます)

PS0264A